

平成29年第1回那須烏山市議会3月定例会（第5日）

平成29年3月7日（火）

開議 午前10時00分

散会 午後 3時47分

◎出席議員（17名）

1番	相馬正典	2番	小堀道和
3番	滝口貴史	4番	矢板清枝
5番	望月千登勢	6番	田島信二
7番	川俣純子	8番	渋井由放
10番	渡辺健寿	11番	高德正治
12番	佐藤昇市	13番	沼田邦彦
14番	樋山隆四郎	15番	中山五男
16番	高田悦男	17番	小森幸雄
18番	平塚英教		

◎欠席議員（1名）

9番 久保居 光一郎

◎説明のため出席した者の職氏名

市長	大谷 範 雄
副市長	國井 豊
教育長	田代 和 義
会計管理者兼会計課長	羽石 徳 雄
総合政策課長	坂本 正 一
まちづくり課長	佐藤 博 樹
総務課長	清水 敏 夫
税務課長	小口 久 男
市民課長	佐藤 加代子
福祉事務所長兼健康福祉課長	福田 守
こども課長	齋藤 進
農政課長	糸井 美智子
商工観光課長	石川 浩

環境課長	薄 井 時 夫
都市建設課長	小田倉 浩
上下水道課長	奥 澤 隆 夫
学校教育課長	岩 附 利 克
生涯学習課長	柳 田 啓 之
文化振興課長	両 方 裕

◎事務局職員出席者

事務局長	水 沼 透
書 記	大 鐘 智 夫
書 記	塩野目 庸 子

○議事日程

日程 第 1 (議案第1号～第9号) 平成29年度那須烏山市一般会計・特別会計・
水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（渡辺健寿） おはようございます。傍聴席には連日足を運びいただきまして、ありがとうございます。

ただいま出席している議員は17名です。9番久保居光一郎議員から欠席の通知がございました。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎日程第1 （議案第1号～第9号）平成29年度那須烏山市一般会計・特別会計
・水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○議長（渡辺健寿） 日程第1 議案第1号から議案第9号までの平成29年度那須烏山市一般会計予算・国民健康保険特別会計予算・熊田診療所特別会計予算・後期高齢者医療特別会計予算・介護保険特別会計予算・農業集落排水事業特別会計予算・下水道事業特別会計予算・簡易水道事業特別会計予算・水道事業会計予算の平成29年度当初予算案9議案を一括して議題といたします。

本件については、去る2月28日の本会議において提案理由の説明が終了しております。直ちに質疑に入りますが、所管の委員会に関する事項は委員会審査において質疑されるよう、お願いいたします。

また、議会運営に関する申し合わせにより、質疑の持ち時間を答弁を含めて30分以内としております。30分を超えましたら、終了を求めますので、御了解願います。

質疑・答弁は簡潔・明瞭にされるよう、この際申し添えます。

それでは、これより質疑に入ります。

1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） 先頭をいただきまして、早速質問させていただきますが、限られた時間ですので、質問に対しては詳細にお願いできれば助かります。再質問・再々質問がなければスムーズに進められると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず、最初に概要書から参ります。10ページでございます。主な新規事業です。ジオサイト烏山城跡整備費設計及び工事費850万円という項目がございますが、内容について伺いたいと思います。どのような整備をするのか、予定しているのか、伺います。

続いて、同じく新規事業で、新食肉センター新設整備補助、出資金、このうち補助金として95万9,000円、出資金が700万円ということで、合計795万9,000円、これについて内容を教えていただきたいと思います。どこへ補助、出資していくのか、この辺をよろし

くお願いします。

質疑は10項目ございます。申しわけありませんでした。

続いて、同じく新規事業で、動植物概況調査業務委託178万2,000円、これは新規事業で、何のために実施するのか、詳細についてお教えいただきたいと思います。

それから、続きまして、予算書になります。35ページでございます。35ページの3款民生費、社会福祉費、この中に社会福祉施設事業費、これも新規で2,500万円計上してありますが、そのうちの地域密着型サービス事業と整備助成事業補助金、これは1,000万円というのが載っておりましたので、わかりましたが、残りの1,500万円の内容についてお答えいただきたいと思います。

次に、46ページでございます。農林水産業費、林業費、林業総務費の中の、ここにイノシシの捕獲促進強化事業費、645万7,000円、昨年度より69万2,000円の増になっております。内容について伺いますが、昨年度の捕獲頭数と、本年度の目標数はあるのか、あるのであれば、教えていただきたいと思います。

続きまして、47ページでございます。農林水産業水産事業費、水産業振興費、この中の20万円、これは昨年の恐らくカワウ対策のための予算100万円とったうちの、それから80万円減額になってしまったからかなと思いますが、減額になった理由、実績がなかったのか、これで間に合ってしまったのかということでお伺いしたいと思います。

同じく予算書の47ページです。商工費、この中に商工業振興費、工業振興対策費の中に企業誘致事業費、これが1億3,641万6,000円計上されております。昨年度よりも6,053万2,000円ふえています。増額の内容について伺います。

続づいて、予算書48ページ、商工費、観光費にあるユネスコ無形文化遺産活用推進事業410万円、この中で山あげ祭の開催時の観光周遊バス運行業務、これが25万2,000円が新規事業で入っていました。また、それ以外の観光事業についての内容について教えていただきたいのと、また、それ以外の事業内容について、残りの金額についてどんなことをやるのか伺いたいと思います。

続いて49ページでございます。8款土木費、道路橋梁費、道路維持費の中のふれあいの道づくり事業、これも昨年と同様860万円計上されておりますが、平成29年度分として既に申し込みというのがあるのか、あるのであれば何件ほど積み残しになっているのか、お伺いしたいと思います。

続いて、60ページ、10款の教育費です。最後です。保健体育費、体育施設の武道館施設整備費です。本年度6,000万円計上されておりますが、今まで恐らく設計から解体、外構・本体工事を合わせて既に4億2,800万円ほど支出しているのではないかと、計算上そ

ういう計算になります。さらにここに6,000万円を足しますと、4億8,800万円という金額になります。今後あとどのぐらい予定しているのか、もしくはないのか、その辺を伺いたいと思います。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） それでは、文化振興課は予算概要書の10ページの中のジオサイト烏山城跡整備費850万円について御説明を申し上げます。

こちらは平成29年度ジオサイト構想推進事業費の1,834万6,000円のうちの850万円でございます。烏山城跡につきましては、自然の地形を利用した山城ということでありまして、今年度はそれを大きくジオサイトということによって位置づけをいたしまして、国の地方創生推進交付金、29年度はそちらを活用した事業でございます。こちらは烏山城跡の遊歩道の整備でございますが、整備費につきましては、烏山城跡の遊歩道を再整備するものでございます。

内容につきましては、こちらはもともと烏山城跡の遊歩道につきましては、平成19年度国交省の関東ふれあいの道事業の1つであります山あげ祭の里をめぐる道として遊歩道が一部整備されてございますが、もう10年たちますので、途中の、その整備されている遊歩道が大分荒れているということがございますので、そのジオサイトとして位置づけと、あと、烏山城跡の整備、観光振興にも資するものという形で整備をいたしたいというところでございます。

工事内容につきましては、三の丸の入り口の道から、登り口の七曲りの上り口がございます。そちらから登りまして、そちらが岩場になってございます。そこが急斜なんでございますが、そこに丸太の階段がございます。こちらの再整備を行う。2点目につきましては、途中急斜なところにロープの柵を設置したいと思っております。あと、それから、3点目は、頂上部、本丸、古本丸のところから眺望をよくしたいと。登ったときに今ほとんど見えない状態になりますので、こちらは地権者の方とこれから協議をさせていただきまして、一部伐採をして頂上からの東側、烏山高校の興野側が眺望ができるような形で行いたいということです。4点目が途中の看板の整備を行いたいということで、ぐるっと古本丸、本丸の部分を大きく回ってきて、同じところに戻ってくるコースという形で約1.5キロのコースを整備したいというところでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 同じく概要書の10ページ、下から2行目でございます動植物概況調査業務委託178万2,000円の御質問でございますが、事業の目的といたしましては、

10年ごとに策定する第2次環境基本計画策定の準備調査ということになります。実際には平成30年に策定予定をしております。

実施の内容といたしましては、市内2地区、森林・丘陵地区と水田・河川地区の2地区に分けて、主に植物・鳥類・昆虫等の調査を実施することといたしております。その実施結果を踏まえまして、広域的な環境に配慮した施策の展開を進めるということにいたしております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） 私からは3点お答えいたしたいと思います。

まず、概要書の10ページ、新食肉センター新設整備補助及び出資金でございます。こちらにつきましては、予算書45ページにあります畜産業費の中の負担金補助及び投資及び出資金というところに計上されております。新食肉センターにつきましては、栃木県畜産公社が主体となりまして実施しているものでございます。県内の3カ所ある食肉センター、宇都宮、足利、大田原にそれぞれございますが、それぞれ老朽化に伴いまして統合を平成25年度から計画のほうを県では進めておりました。そこに対しまして、県の市長会等の合意も整いまして、建設に対する補助金、それから、出資金ということで出資することになっております。まず、出資金につきましては、それぞれの市町内の飼育している豚・牛の頭数割なども換算した結果の金額で700万円でございます。それから、補助金につきましては、平成29年度95万9,000円となっております。これは平成30年、31年とそれぞれ続きまして、平成30年に377万2,000円、平成31年に336万9,000円を見込んでおり、合計で810万円の建設事業費補助金を予定しております。

次に、予算書46ページでございます。イノシシ捕獲促進強化事業の内容でございます。こちらにつきましては、主なもの、イノシシ捕獲体におきます委託料といたしまして、201万2,000円、実績によります報奨金ということで294万円、わなの設置や電気柵の補助等で145万円が主なものでございます。その実績でございますが、昨年は225頭の実績がありました。本年はちょうどきのう現在聞き取り調査を含む段階でございますが、247頭の実績が既にごございます。予算上はとりあえず210頭分で計上してございます。

次に、予算書47ページ、カワウ対策になります。水産業振興費カワウ対策、議員お見込みのとおり、昨年100万円を計上しておりましたが、本年度の実績が48羽、補助金にいたしまして4万8,000円の実績でございました。大きな伸びを余り考えず、とりあえず20万円ということで計上させていただきました。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 私からは予算書の35ページ、社会福祉施設整備費のうちの1,500万円についてお答えしたいと思います。これにつきましては、市内の社会福祉法人であります大和久福社会で旧烏山地区旭地内で昭和54年築の健常者が使っていた住宅を買い取りましてグループホームとして活用したところ、今回改築に当たりまして一部助成するものでございます。これはこの改築に当たりまして短期入所の施設、部屋を確保することによりまして、障害者の緊急時の受け入れ、あとは災害時の障害者に対応した、知的障害者とか、発達障害者だどうしても大きな避難所では避難できないということもございまして、そういったものの受け入れ施設としても活用できるということで、また、この中には障害者の居宅支援・移動支援等の事業所、そのほか市で委託しております障害者相談支援事業所、こちらが入りますことから、障害者の旧烏山地区における拠点となるということで助成を考えたところでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 商工観光課から47ページの工業振興対策費及び48ページのユネスコ無形文化遺産活用推進事業費について説明させていただきます。

まず、47ページ、工業振興費、内容ですが、1億3,787万円。内容としましては、富士見台工業団地の管理事業費として110万5,000円、内容としまして、水質検査等の手数料及び調整池等の草刈り等の委託料が主なものでございます。次、企業誘致事業費としまして、1億3,641万6,000円とさせていただきます。昨年の企業誘致事業費に比べまして、6,050万円ほど増加しておりますが、内容としましては、太陽光発電の奨励金、主にはケン・コーポレーションが新たに奨励金の交付対象となったものですから、こちらがふえてきたということでございます。そのほかは工業振興対策費としまして、34万9,000円、内容としましては、本年10月にビッグサイトで開かれます中小企業総合展というところに商工会工業部会等と協力しながら出展していきたいと考えているものでございます。

次、48ページのユネスコ無形文化遺産活用促進事業ですが、内容としましては、消耗品、食料品のほか、委託料としまして、毎年駐車場問題が取り上げられます。まだ未定ですが、小学校・中学校・サッカー場等が利用できないかということで、そちらを駐車場として利用した場合、お祭り会場との行き来でシャトルバスを頼もうということで、その委託料及び先ほど議員がおっしゃいました周遊バス、こちらにつきましては昨年試行的にやりましたが、お祭り会場と山あげ会館と洞窟酒蔵と滝水辺公園の3カ所を周遊させるということで、そちらのバス3台分、ちなみに去年は2日間やって9,000人の方がバスを利用して観光したということで、ことしから本格的に事業化しようということで考えてございます。そのほかは警備の委託

140万円、仮設トイレ等の借上料等で、全部で410万円という内容になっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私からは予算書の49ページ、一番下段です。道路維持費、ふれあいの道づくり事業費860万円の説明をさせていただきます。こちらは地元の方が主体となりまして道路を整備することで、私どもでは材料費及び機械のリース料等の費用を負担する事業費でございます。施工箇所なんですけど、事業量が多い地区ですと、とても単年度では終わりませんので、一応予算の性格上、単年度精算していますが、今年度の見込みとして、継続事業として6カ所を見込んでおります。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは予算書60ページ、武道館施設整備費6,000万円について御説明申し上げます。今年度予定しております内容といたしまして主なものが、敷地の造成、それから、雨水排水設備、舗装ということでございます。先ほど御質問にありました、これで終わりなのか、まだ継続するのかということについてなんですけど、当初計画しております外のトイレと、あと、公園の整備につきましては平成30年度になる予定でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） 時間もないので、簡単に再質問させていただきます。

農政課の食肉センターなんですけれども、出資金は700万円ということで、これは各市町に割り振った金額ですよ。では、それでよろしいかと思えます。

それから、あと、同じく農政課なんですけど、イノシシなんですけれども、目標数が200頭ということなのですが、昨今の市内の状況を見ると、市街地区までイノシシが進出して非常に困っているという話が多いです。やはりもう少し目標を高く掲げて、300頭とか、350頭とか、そういった目標を立てていただいて、こういったところにもまた予算なりつけるのは非常にいいのではないかと思いますので、その辺の御検討もよろしくお願ひしたいと思えます。

それから、武道館なんですけれども、今大体5億円近く投資、投入しているわけなんですけれども、これからさらにトイレ、公園ということになると、5億円を超えるような金額になっていきます。そこで、前々から空調をどうするのだという話がありまして、つけてもらいたい、要らないという発言がありましたけれども、現在空調設備を導入するのか、その辺は考えているのか、それは質問、1点だけよろしくお願ひします。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 今の御質問にお答えいたします。現在のところ空調設備を設置する考えは担当課ではございません。

以上でございます。

○1番（相馬正典） 了解しました。

○議長（渡辺健寿） では、相馬議員終わって、次は、2番小堀道和議員。

○2番（小堀道和） 2番小堀です。予算の関係のために一般質問とは違う見方だとは思っただけですけれども、まず、最初に、予算そのものを確認の意味で質問します。

一般会計、ことし、今年度は約110億円、このうち公債費が13%、約14億円ですけれども、これについて確認したいのですけれども、適正な本市の予算規模というのは、先輩の中山議員が質問されていましたが、1.7万人の那珂川町は81.5億円の予算をことし組んでいます。その中で公債費は11.3%です。塩谷町を見ると、ここは1.1万人で47.4億円の予算を組んでいますけれども、公債費は10%なのです。特に比較に出される高根沢町、3万人弱ですけれども、2.9万人で、過去最高の96.3億円を組んでいます。公債費はうちの半分、6.8%なんです。したがって、この公債費13%にも達している本市の予算規模というのは本当にいいのだろうかと言われても仕方がない状態だと思います。これは私も責任の重さを本当に市民の皆さんと話をするとずしんと感じてしまうんです。毎年考えられる方策をやっても16.9億円の予算不足が毎年生じると総合政策課からの説明があって、全市民にこの状態を説明し、全市民で我慢できることは我慢することを訴えようと議会でも皆さんと一緒に誓ったはずなのに、なぜ新しく、半分になったとはいえ、4.8億円もの新規借金、市債の発行をしてまで予算を組むのかというのは再確認したいと思うのですけれども、この借金は少しずつ減らしはしているのですけれども、新しく市債発行をして、新規に借金を追加してまでこういう規模の予算を組むのか。特に質問したいのは、借金をしてまで組むという文化をいつまで続けるのかというのは確認しておきたいと思います。それが1点目です。

それと、2つ目ですけれども、福祉関係で、市民にとってとてもありがたい新規事業、例えば、これもうれしいのですけれども、病児児童の預かりや土日デマンドタクシーとか、あとは農業委員の給料を上げるとか、これはすごくやってあげたいのはやまやまなのですけれども、こういう費用負担につながるものが多過ぎるのではないかなというのを感じるのです。これらはどうしても必要不可欠であるとすれば、執行部として議会に提案する場合は、これをやめてでもこの新しいのをやりたいのだという情熱を持って提案すべきだと思うのです。そうしないと、我々市民に納得してもらえない判断を議員ができないので、ぜひそうしてほしいと思うのです。この新しいことはすばらしいので、これを我慢するから、それでもやってほしいのだという提案であると、市民にも納得をもらえると思うのです。その見解、2つ目です。

それと、次の3つ目なのですが、一般会計予算の概要の中で、歳入の中で自主財源比率、ことしは34.2%になったと説明がありますけれども、今までこの議論は何度もあったと思いますけれども、本市の自主財源比率、この目標というのは一体何%をめどにしたいのだというのをお示しいただきたいのですけれども、目標がないのはやはりおかしいので、そこを目掛けてみんな努力しようという議論が必要ではないかと思って3つ目の質問です。

あと、この概要の中で、これは私も笑いながらなんですけど、12ページを開いてください。12ページに一般家計に例えるとというすごくわかりやすい説明になっているんですけども、これが家計簿に置きかえて読んでいくと、旅行や娯楽やゴルフなどの人生を謳歌する項目が全くないので、ただ、生きていくだけの予算、本市の状況ということの説明したいのかというふうに着目した見方をしてしまうのです。ただ、貯金があるので、貯金を切り崩して、15万4,000円を使えということでもありますけれども、ただ、将来のための貯金というのが全くあり得ないのかなと読めるのですけれども、多分そうだと思うのですけれども、きのう先輩議員の中には、いろいろな貯金があるから、これも使ってはどうかみたいな話があったんですけども、ただ、そういうことは別にしましても、やはり家計の予算の中では必ず娯楽というのをに入れて、それで、借金とか、そういうのはどうするのだみたいなことを言わないと、市民にわかってもらえないのではないかと思うので、この辺は笑顔で結構なので、回答をいただければと思います。これが4つ目です。

あとは、予算概要書に行きます。1ページに企業誘致事業費、1億3,641万6,000円。予算書では47ページの商工費に入っていますけれども、多大な予算を組んでいますけれども、具体的にどのような業種にどんなアプローチをするのかと……。(「言ったよ」の声あり)今言ったか。それで、僕が言いたいのは、今までと同じことをやってはだめなので、その視点だけを答えてもらえればと思います。

それと、次に、今度は予算書20ページに15款3項1目総務費委託金が昨年比から3,200万円近く大きく減少しているので、これは今後の見通しも含めて内訳を伺いたいと思います。

それと、次、50ページに歳出の8款2項3項目道路新設改良費が昨年と比べて3,100万円ほど大きく減少していますけれども、この減少の理由、今後の見通しも含めて見解を伺うんですけども、これも財源から考えて、我慢できるものは我慢するためにとったというふうに読んでいいのかどうか。それであれば、やはりみんな我慢しようという、新規につくるものは、そういう説明ができるようにしてほしいのですけれども、その真意を確認したいと思います。

それと、62ページの歳出、12款1項2目利子が1,400万円ほど減少しています。こ

これは市債の残高が減ったから効いているのか、それとも利率が下がったからなのかを伺いたいのですけれども、特に利率というのは、もう本当に一定の比率でずっと契約をしているのか、それとも下げるとか、そういう検討はないのかどうかということも含めて教えてください。

それと、この概要の中に各種積立基金が15ページにあります。この中で新庁舎整備基金があります。これが平成28年度末で3億492万5,000円で、1年後の29年度末の基金が3億500万2,000円とありまして、ほとんど変わっていないのは、これは積み立てることができないと読めるのか、その辺も、これは私が間違っていることを期待しているのですけれども、見解も含めて教えてください。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） まず、公債費です。予算110億円に対しての公債費の率が適正かどうかということでございますけれども、こちらにつきましては、現在、先ごろ中長期財政計画を進めさせていただきましたけれども、平成28年度、29年度あたりが今まで合併特例債等を活用してまいりました償還のピークを迎えているということで、予算規模に対する比率が若干高目になっている。今後は中長期財政計画にも示させていただきましたが、現行のまま推移すれば、地方債の残高、それから、公債費も減少してまいります。これが適正かどうかということについては毎年9月定例議会におきまして実質公債費比率・将来負担比率につきまして報告させていただいておりますけれども、現在の比率につきましてはほぼ適正な数字だということで御報告をさせていただいているところでございます。

それから、新規事業がふえて、ほかに行革している部分がないのかということですが、当然歳入、予算の財源は限られているところでございますので、新規の事業を立ち上げるに当たりましては、これまで実施してきました事業について見直しをしながらその財源を確保して新規事業に振り向けているというところでございます。

それから、自主財源比率の目標はどうなんだということですが、現在手元に県全体の平均の数字を持ち合わせておりませんが、目標とすれば、県内市町村の平均の数字を目標としていければと考えてございます。

それから、概要書の12ページの家計簿の話でございます。娯楽に要する経費が見当たらないということですが、本市の予算の状況についてはこれまでもお話しさせていただいておりますように、経常収支比率が90%を超えている、いわゆる義務的にお金を支出しなければならないのが9割以上占めているということですので、なかなか娯楽に相当する部分にお金を回していくということが難しいということですので、御理解をいただきたいと思っております。

それから、予算書の20ページの総務費委託金3,200万円ほど減額になっているけれども、これはどういうことなんだということなのですが、基本的には前のものも国から委託金等返還いたしますけれども、大きい要因としては、選挙の関係の委託金が減少になっているというところでございます。

それから、予算書の62ページの利子減になっているということですが、これは毎年、先ほど申しましたように、平成28年度あたりがピークでございますので、これから少しずつ元利償還金が前年から減少していくという見通しでございます。利率の部分でございますが、こちらにつきましては、特に市中金融機関からの借入れが今中心でございますけれども、そちらにつきましては、各金融機関からの見積もりを徴収いたしまして、一番低利な金融機関から借入れをするということで利率については調整をさせていただいているところでございます。

新庁舎整備基金、増額しないのはなぜかということですが、新庁舎整備基金につきましては、当該年度の決算処分の際に決算剰余金の中から一定額を積み立てるということで計画しておりますので、予算上は予算の中でなかなか積立金を確保するというのは財源的に難しいものですから、本年度も平成28年度の決算剰余金の中から一部積み立てていきたいと考えてございます。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 予算書概要書の1ページの企業誘致事業費についてお答え申し上げます。金額は1億3,641万6,000円ですが、内容につきましては、先ほど相馬議員にお答えしたとおり、企業誘致奨励金でございます。奨励金が1億3,621万6,000円でございます。その内訳としましては、太陽光以外の企業誘致としましては3件、462万1,000円、太陽光部分、太陽光発電所分として21件、1億3,159万5,000円の見込みでございます。全事業費としましては、6,053万2,000円増額しておりますが、先ほどお答えしましたように、鴻野山に設置されましたケン・コーポレーションの太陽光発電の奨励金の増設部分が影響しているものでございます。

なお、同じことということなのですが、企業誘致の奨励金の金額の大小はいずれにしてもメニュー数としましてはほかの市町村と遜色ないものと私は思っておりますので、それらを活用した企業誘致を行っていききたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私どもは予算書の50ページ、道路新設改良費の中の道路整備費の減額になったという説明をさせていただきます。道路整備費につきましては3種類ご

ざいまして、1種類が国の交付金が入ってくる事業です。その裏負担をするということです。あと、合併特例債を利用した事業と、あと、純粹に全て自主財源でやるという単独事業と3種類ございます。そのうち国庫が6カ所、合併特例債が1カ所、単独が3カ所で、合計当初予算で10カ所エントリーさせていただきましたが、減額の理由としましては、皆さん御存じのように国の財政も火の車の状態でございますので、その交付金の、要するに見込みで宛てがう交付金を昨年度よりは減額になるんじゃないかという、国のほう、それと、あと単独事業です。単独事業というのは財源の確保ができなければできませんので、そちらの絡みで昨年度に比べて減額させていただきました。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 2番小堀道和議員。

○2番（小堀道和） 再確認ですけれども、予算規模の話と、あと、公債を新しく発行してまでやるのかというやつに関しては、今の説明でわかったような、わからないようなことなんですけれども、新しい借金をしてまでやるのかというやつに関してはもう一度明快に答えてほしいと思います。

あと、この予算を家計簿に例えるというのは、今の執行部の説明は翻訳して我々も市民に説明する必要があると思うんです。そういうことで、当分娯楽は控えてみんなで我慢することは我慢しようと、そう言ってしまうと、暗い市になってしまうので、その中でも工夫してお金を使おうということを言いながら、市の財政をみんなでPRする必要があるのかと思いましたが、その答弁はいいですけども、そんなことを我々の課題にしたいと思いました。

それと、道路の新設はそのとおりなので、この辺もやはり市民にPRしなければいけないかと思いながら聞いていました。そうはいつでも頭を使いながら新規も多少できるようなこともぜひお願いしたいというのが感想です。

それと、この市債の、銀行からの借り入れの利率については、これというのは定期的な見直しというのを契約の中でうたっているのか、それとも思いつきのときにやるみたいなことなのか、わからなかったなので、その辺を教えてください。

あと、基金に関しては多分今年も積み上げることができるのではないかと思うのですが、予算の中で明確に入れておく必要もあるのかというのは感想です。

そういうことで、何点か今の再質問に答えていただければと思います。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 公債費の比率が高い中で今後も起債を使った事業を展開していくのかどうかということですが、起債の内容につきましては、予算書の8ページにその内訳を掲載させていただいております。先ほど御説明いただいた市道整備に係る起債、こ

ちらは合併特例債を活用しまして市道の路線整備をするものでございます。辺地対策事業につきましても市道の整備に充てている起債でございます。

それから、臨時財政対策債、こちらについては本来地方交付税で措置していただける金額でございますけれども、国の財政上の都合で一旦各地方自治体で起債を起こしてその元利償還金については100%交付税で見えあげますという制度でございますので、こちらは交付税の縮減に対する代え措置ということでございますので、どうしても活用せざるを得ない部分でございます。

市道整備事業につきましては、先ほど予算が少ないのではないかというお話もございましたが、計画的にこれまで市道各路線の整備を行っておりますので、そちらの財源として活用させていただいているということでございます。

それから、起債の利率の見直しの関係ですが、今の金融機関等の中で結んでいる契約の中では10年目で利率の見直しを行うということで、10年目に利率が、市中金利が下がっている場合には低い利率で再度利率の見直しを行うということで進めてございます。

○2番（小堀道和） 結構ではないけど、結構です。

○議長（渡辺健寿） 次はどうか。

3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） 総括質疑ですので、私の総務常任委員会を除いた質問をさせていただきます。

まず、当初予算書の37ページ、民生費、民生福祉総務費、ファミリーサポートセンター事業費3万3,000円について質問いたします。昨年度からファミリーサポートセンター事業がスタートしましたが、援助会員及び依頼会員とも少ない状況であったと聞いております。積極的な周知活動による事業推進を図っていくべきだと考えますが、予算は昨年度の当初予算9万2,000円よりも少ない3万3,000円であります。現在の運用状況と平成29年度の取り組みについて伺います。

2点目です。当初予算40ページ、衛生費、保健衛生費、健康づくり事業費84万2,000円について質問いたします。平成29年度から健康マイレージ事業として84万2,000円が新規に計上されています。昨日同僚議員が行った一般質問の際に、事業の効率的な展開に向け、今後は関係課との連携強化を進めていくと答弁が行われたと思います。そもそも健康マイレージ事業推進するための制度設計の段階において、連携を図った上で予算化を進めるべきではないかと僕は思うのですが、制度設計に当たりどのような調整がありましたか、お答え願いたいと思います。

次に、当初予算41ページ、衛生費の環境衛生費、環境対策事業費1,130万4,000円

です。このうち環境基本計画策定事業費として動植物概況調査業務194万5,000円を計上しているが、何のためにどのような事業をするか、お願いいたします。

次、41ページ、同じ環境衛生費の中から環境衛生事務局費、野犬対策事業費、こんなに野犬がいるというのに9,000円という予算でびっくりしたんですが、これについてもお願いいたします。

次に、5点目です。商工費、観光費、観光振興費、48ページ、1,732万1,000円。この中に、私12月に質問いたしましたいかんべ祭事業補助金として300万円が計上されていると思うのですが、この件に関しては12月にさまざま一般質問で提言をさせていただいたことから、内容を踏まえ、市長が1月中旬ごろまでの市長査定によって内容をほぼ決めるという答弁をしていますので、これは市長に答弁をお願いいたします。

6番目、次に、当初予算、衛生費の保健衛生費、乳幼児予防接種補助金として331万6,000円が計上されまして、昨年当初予算37万9,500円と比較すれば、293万6,500円増加しています。これは子供のインフルエンザの予防接種の助成を新規にすることですが、単なる増加であるかどうかと、また、子育て支援策には非常によいことではあるが、ただつくっただけではなく、何か壊したものがあるのかお伺いいたします。

次に、教育費、86ページです。教育総務費。烏山高等学校の通学補助、平成29年度は700万円を計上しておられると思います。恐らくこの件に関しては今まで文教福祉常任委員会からも見直しを求める意見が出されていると私は記憶しておりますが、今年度の烏山高校の最終倍率は昨年度よりは少ない、倍率が低い状況になり、定員割れが確実な状況となっております。補助金の交付により抑止力がつながっているという考えもできなくはないが、今後もこの考えを継続していく考えか、これは教育長にお願いいたします。

最後に、概要書の20ページ、文武両道教育事業費、スーパーティーチャーとJFA夢の教室の派遣等で昨年よりも7.9%増の242万1,000円計上されています。この増額の理由をお願いいたします。

以上お願いします。

○議長（渡辺健寿） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） いかんべ祭補助金につきまして私に御質問ございました。お答えいたします。

いかんべ祭実行委員会、昨年10月に開催をされまして、諸般の理由によりましてこのいかんべ祭の実行委員会としては解散をする旨、報告がございました。その際、顧問として私も呼ばれたわけでございますけれども、その席上、皆様方解散やむなしということで可決をされたわけでございます。その報告は、実行委員会としては解散をして、そのいかんべ祭の事務を

市にお返しをするという報告でございました。その中のいろんな意見といたしましては、存続を求める意見、あるいは見直しをしながら存続すべきという意見も多数あったわけでございます。そのようなところから、市長裁定までにはその是非も含めて検討するとお答えしたと思います。そのようなところから、市といたしましても、この40回続いているいかんべ祭、この存続に向けて新たな実行委員会を立ち上げながら存続していきたい、このようなところを判断したわけでございます。

したがって、補助金については300万円ということを計上させていただきましたので、ぜひいろんな団体に今この協力を呼びかけておりますので、どうか議員各位も御協力をいただきますようお願いいたします。

そのようなことで、300万円の予算を計上したということでございますので、御理解いただきたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 齋藤こども課長。

○こども課長（齋藤 進） 私の質問、3点あったかと思っております。ファミリーサポートセンター、予防接種の件、また、子育て世代包括支援センターで何かほかに影響があったのかという内容だったと思っております。

ファミリーサポートセンターでございますが、現在4名の方が登録されております。援助会員、支援員、2名、2名になっております。少ないのではないかとということで御指摘されております。現在のPR方法につきましては、お知らせ版、広報、ホームページ、また、団体へ赴いてPRしているのが現状でございます、来年も同様に、お知らせ版、ホームページ、機会がありましたら、広報等も使って、あと、団体への出張も積極的にやっていきたいと思っております。

もう1点、予防接種でふえた部分について、これはインフルエンザかという話なんですが、インフルエンザの予算ではございません。インフルエンザの予算というか、予防接種の部分でいいますと、材料費でいいますと、昨年B型肝炎が定期接種になりましたので、その分の追加があったので、ふえたと。インフルエンザについては現在、矢板議員の質問にもありましたが、補助制度でやっていきたいということで、別の項目で306万円だと思いますけども、入れております。インフルエンザは不定期で、B型肝炎は定期ですので、その辺が予算の組み立てが違っております。

もう1つ、子育て支援センター、これは子育て世代包括支援センターのことだと思うのですが、基本的にほかの予算を壊してこれに入れたのかということでございますが、今までやっていた母子保健事業をそのまま継続して強化していくということで進めていますので、これを設置することで事業を廃止したとかいうのはございません。逆に強化しているというスタン

スでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） では、私から40ページの健康づくり事業、その中の健康マイレージ事業についてお答えしたいと思います。これにつきましては、本年度健康づくりのプラン、健康プランという指標になる計画をつくっているのが健康づくりの推進協議会というところで検討しながらやっているわけでございますが、その健康づくりの話し合いの中で健康づくりの関心が少ない層の動機づけ、何か方策ということで考えたところでございます。これにつきましては、プロジェクトチームというか、やりまして、まちづくり課、商工観光課、子ども課、市民課等、あと、生涯学習課等の職員が参加してこのプランを立ち上げたところでございます。これにつきましては、とりあえず平成29年度はまずやってみようということであらうといったものをつくってみまして、これから実施に向けてほかの課も関係してくるということになりましたと、そちらを巻き込んでまた事業拡大をしていきたいと考えています。

今回のポイントの対象になるのも、今言った健康福祉課の事業、生涯学習課のマラソン大会とか、ハイキングとか、そういった事業、その他ほかの課でやっている事業、ボランティア事業とかも参加したものについてポイントの対象とするようにしていますので、今後まだまだほかの課でやった事業に参加したものもポイントということであれば、そちらを巻き込んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 予算書41ページの御質問ですが、41ページの環境衛生費の右側のところに環境衛生事業費6,053万円の予算の中の野犬対策費9,000円というのがございますが、その内容と環境対策費1,130万4,000円の中の環境基本計画策定事業費194万5,000円の御質問かと思いますが、まず、野犬対策事業9,000円でございます。その内容は、餌代ということになります。御案内のとおり、野犬対策の事務につきましては栃木県の事務ということになっておりまして、市と県がタイアップいたしまして、その間に動物愛護センターを介しまして実施しているというのが内容でございます。先月、2月中旬から3月上旬にかけて結構今回犬がかなり捕まりまして、志鳥地区、川井地区、それから、八ヶ代地区を含めまして16頭ということで、わなにつきましても、動物愛護センターのわな、それから、わなそのものにつきましては環境課でも持っておりますので、その貸し出し、そういう協力をしながら進めております。予算上は餌代だけを計上させていただいています。

それから、環境衛生対策事業・環境基本計画策定事業費につきましては、先ほど相馬議員か

らも御質問ありましたので、一部ダブリますが、お答えさせていただきます。環境基本計画、これは第1次、合併後の平成20年に策定しました。それから、10年たちまして、平成30年に第2次を策定するというので今準備いたしております。その前年度、平成29年度に基礎調査を実施するというので、その予算を計上させていただきました。委託費で178万2,000円ということになります。一部繰り返しになりますが、市内2地区に分けて、いわゆる森林・丘陵地区、それから、水田・河川地区の大きく2地区に分けて詳細調査を実施します。まず、植物調査は夏期に、それから、哺乳類は5月下旬から6月上旬、鳥類が5月下旬から6月上旬、両生類が5月上旬、爬虫類が5月上旬、昆虫類が6月から7月ということで総合調査を実施いたしまして、広域的な環境に配慮した計画を策定するというので準備を進めております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、予算書の86ページ、高等学校教育振興事業費補助金700万円ということで、今後も継続するのかという質問の趣旨だったかと思いますが、お答えいたしたいと思います。現在約120名の生徒がこの補助事業の補助金を受けまして烏山高校に通学しております。ただ、きのう入試ということで、この数が来年以降どうなるかというのは、若干変更も出てくるかと思いますが、ただ、いずれにいたしましても、烏山高校と馬頭高校の募集定員の合計が345名ということで、本地区那須烏山市、それから、那珂川町の中学生の数を募集定員のほうが上回っているという状況はもうここ三、四年前から継続して、その差が開きつつあるという状況でございます。一応教育委員会といたしましては、できるだけ補助を継続させていただいて、やはり他地区から生徒を連れてこないで定員が満たないという現状、それから、もう1つは、私はもう立場を離れてしまいましたので、余り踏み込んだ話できませんが、募集定員そのものを変更してもらおうという働きかけも高校から当然出てくるべきものではないかと思っております。

ただ、いずれにいたしましても、無制限に補助金を上げていくと、数がふえたからということではない袖は振れない部分もありますし、非常に予算規模も縮小されていくという状況の中でなかなか現行と同じ制度でというのは難しいと思いますので、那珂川町は上限を設けて補助しているのです。そういう部分も念頭に入れながら、今後できる限り継続できる方向と、それから、継続できる方策を両方面から対策を講じながら考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、文武両道ということで答弁させていただきたいと

思います。文武両道につきましては三つの事業をやっております。1つは、スーパーティーチャーの育成事業、それと夢の教室、それと神奈川大等の交流事業ということで3つの事業をやっておりまして、それで、スーパーティーチャー事業については121万2,000円、夢の教室が98万円、神奈川大との交流等について22万9,000円ということで、総額242万1,000円ほど計上しております。昨年度は224万4,000円ということで、17万7,000円増額になっておりますが、これにつきましては、スーパーティーチャー育成事業で、ことしも7名の教諭を2回派遣したいということで、その分が増額ということになっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） 何点か再質問させていただきます。

市長に、今いかんべ祭で現在決まっていることを、現段階でいろいろ決まって、予算もついたので、いろいろなところにお声がけをしているようなお話を私もお聞きしました。それで、現段階で決まっていることがあれば、教えていただきたいと思います。まだ白紙であれば、白紙で仕方ないと思います。

インフルエンザの予防接種の話で、新規助成するということであることは私も理解、そのために僕が聞きたいのは、高齢者の予算が少し削られているのです。ですから、それがスクラップ・アンド・ビルドで、痛みを高齢者に分かち合ってもらっているのかという質問だったのですけども、もう1回答弁をお願いいたします。

あと、文武両道事業費については了解しました。スーパーティーチャー、ことしはどこへ行くかだけ決まっていれば教えてください。

それと、烏山高校の補助金、やはり本当に私の市は財政が厳しい中、ほかの市町村の人に補助をしているという苦情もお聞きすることも多々あります。子供がいる世代ですから、親御さんの話でも烏山高校だけ何で補助があるのだろう、だからといっても烏山高校ではないほかの高校に行く、そこではなくて、烏山高等学校に魅力づくりが大事だと思うのです。それについて教育長、もう1回お願いします。

その4点お願いします。

○議長（渡辺健寿） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） いかんべ祭の現在の現状でございますけれども、私どもは各団体に要望しているという状況でございます、企画等については白紙でございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 高齢者のインフルエンザでお答えしたいと思います。スクラップ・アンド・ビルドということになるかと、結果的にはなってしまったのですが、高齢者のインフルエンザの助成につきましては、今まで全額、1回目4,500円という助成をしていたわけですが、年々インフルエンザ予防接種費用が上がってきまして、それを全額負担するということではどうなのかということで見直しを図りました。県内の助成制度といろいろ見直しを図った中で限度額というのを設ける必要があるかということで、限度額の設定ということでさせていただきまして、来年度の助成につきましては1人当たり3,500円の限度額ということでの予定をしています。今まで4,500円、同じ金額の接種料でありますと、1人当たり1,000円の個人負担が発生してしまう。ここで財政的には600万円ぐらい浮くようにはなるんですが、あとは医療機関の取り決めになりますので、医療機関で何か今までだと2回目4,000円ぐらいでやっている医療機関もあるし、3,500円でやっているところもありますので、それは医療機関これから、市では3,500円しか出さない、それ以上につきましては医療機関によって若干変わってくる場所もあるかと思いますが、個人負担を求めるといふふうに変更させていただきました。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育長。

○学校教育課長（岩附利克） スーパーティーチャー育成事業の行き先でございますが、今年度も福井県を予定しております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、烏山高校の通学補助ということですが、先ほどできるだけ条件等鑑みながら継続したいということでお話し申し上げましたが、一方で議員がおっしゃるように、烏山高校自体の魅力がなければなかなか来ない、正直なところ、嫌みな言い方をすれば、教職員の子弟も外に出てしまうというケースが結構多々見られるわけですので、そのためには、やはり魅力というのはこれまでの一般質問の中でも烏山学その他いろいろな話が、まちづくりとか出てきましたが、中学生に一番アピールするのは進路がどれだけ成就するかという部分でございますので、そういった点につきましては、両校の、両校というか、特に烏山高校の校長とまたお互いに意見交換しながら、そういったアピールの仕方についても、需要が本来は成就するパターンができていながらもかわらず、私も若干アピールが足りないのではないかという見方で、時折大川校長とは話したりしておりますけれども、また、そういった部分について市として、また、教育長としてできる範囲でセッションして、また、意見交換をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） こども課長から一部訂正があるそうです。要点だけお願いします。

齋藤こども課長。

○こども課長（齋藤 進） 先ほどインフルエンザ予防接種の点でB型肝炎とインフルエンザが影響しますという答弁をしてしまいましたが、B型肝炎は今年度もう既に定期になっていますので、実質インフルエンザ予防接種の額が増額になっております。大変失礼しました。

○議長（渡辺健寿） 3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） インフルエンザの件でございますが、高齢者には痛みを伴っていただいて、若者というか、乳幼児、子供にインフルエンザの予防接種補助金ができることは本当にスクラップ・アンド・ビルドで、大変僕は素晴らしいことだと思います。

それと、市長、いかんべ祭につきましてはぜひ、市民の楽しみの1つでありますから、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○議長（渡辺健寿） いいですか。

○3番（滝口貴史） 以上です。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前11時14分

再開 午前11時25分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き再開します。

質疑を継続します。

4番矢板清枝議員。

○4番（矢板清枝） それでは、質問させていただきます。

予算書から29ページ、2款総務費、11目交通安全対策費の中の運転免許自主返納者支援費ということで、34万1,000円で2万7,000円の増となっています。今回来年度は何人ぐらいの方の自主返納者を考えているのか、どのように推進していくのか、また、返納された方への手当てみたいなのは何を考えているのかを伺いたいと思います。

それから、167ページ、3款地域支援事業費、6目の認知症総合支援事業費、386万5,000円を計上していますが、内容の確認ということでさせていただきたいと思えます。

続きまして、75ページ、甲種防火管理者講習受講料ということで、昨年はなく、今年度1万9,500円を計上されていますけれども、これは1名分で受講するという、何のどんな

種類があるのかという、そのことについて伺いたいと思います。

同じく75ページ、一般コミュニティ助成事業補助金ということで1,620万が計上されていまして、昨年度より1,370万の差額で多くなっていますけれども、この事業内容を確認させてください。

それから、同じ75ページで、ツール・ド・とちぎ運営負担金ということが計上されていて、80万円が計上されていますけれども、それも確認したいと思います。

次の87ページ、とちぎ結婚支援センター運営負担金ということで5万円が計上されていますけれども、これは県で始める事業の運営金を出すのか、どうなのかということをお伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 予算書29ページ、一番下の運転免許証自主返納者支援費34万1,000円の内容でございますが、平成29年度は20人分を見込んでおります。1万5,000円のタクシー券並びに市営バスの乗車券いずれか選択ということで支給しますことと、自転車の乗車で希望される方についてはヘルメットの支給ということで予算を計上させていただきます。

続いて、74ページ、甲種防火管理者でございますが、一応甲種と乙種というものがございます。私どもは、この規模とか、入る事業所のものによって違ってきますが、通常は甲種の防火管理者ということで10時間程度の講習を受けるものでございます。乙種につきましては非常に小規模なものということで、施設を対象にした防火管理者というもので、講習時間も約半分ということです。それらについては細かい、その入っている業種ごとによって違いますので、ここでは説明は省略させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 予算書75ページ、コミュニティ助成事業の関係で、増額の理由でございます。コミュニティ助成事業につきましては、財団法人自治総合センターコミュニティ助成事業という事業を活用して対応しているものでございます。来年度につきましては、自治会の公民館を建てる予算をとってございますので、それに係る経費が1,220万円ほど計上してございますので、おおむねその経費に充てるものでございます。そのほかに自治会で使う、おはやしに係る費用とか、あとはエアコンの改修、そういったものもコミュニティ助成事業の対象となっておりますので、それも含めて1,370万円のプラスとなっております。

もう1つ、ツール・ド・とちぎの助成金でございますが、これにつきましては平成27年度の加速化交付金ということで繰越明許になっておりましたが、ことしの3月31日から4月2日にかけて平成28年度事業としてツール・ド・とちぎ第1回目が開催されます。お手元の平成29年度の80万円につきましては、これの第2回目になる予算としておりますが、これにつきましては栃木県が運営主体となってそこに対する費用負担ということでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 私は介護保険特別会計で御質問がありました認知症の総合事業の内訳ということでございますが、これにつきましては平成28年度と余り変わりはありませんが、認知症の推進員の嘱託職員1名と、それと介護予防大会、あとは認知症サロン、物忘れ相談等の教室等、あとは認知症サポーターの養成講座の開催ということでございます。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは予算書の87ページ、とちぎ結婚支援センター運営負担金について御説明いたします。これにつきましては栃木県で新たに平成29年度から稼働する結婚支援センターへの市町村の負担金でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 4番矢板清枝議員。

○4番（矢板清枝） 大体わかりました。ですが、もう一度何点か再質問させていただきます。

認知症予防のサポーターということで来年度も考えているということなのですが、何名ぐらいふやす予定か、どんな形で認知症サポーター講座みたいなのを開く予定があるのかということをお聞きしたいと思います。

それから、コミュニティ助成事業のところで自治会の公民館を改修するというので、これはどこが対象になっているのかという地区名など、わかりましたら教えていただければと思います。

それから、このとちぎ結婚支援センターへの運営負担金ということで、県で始まる事業の負担金ということで、本市では負担金を出すだけで、どのような支援というか、運用が一緒になされるのかという内容は決まってわかっているのかという確認をとりたいのですけれども、お願いします。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 認知症サポーターの養成講座でございますが、各学校と一般対象ということで、学校につきましては小学生が大体250人、中学生200人、一般が

200人ということで現状は考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） コミュニティ助成事業の対象でございますが、自治会館を建設予定ということで当初予算で計上させていただいているところは、高峰パークタウン自治会になります。そのほかに一般コミュニティ助成事業ということで、大桶上自治会、あと、小木須自治会、こちらにつきましては、はんでんとか、エアコンとかそういったものの助成に充てるものでございます。

もう1つ、ツール・ド・とちぎの内容だったのでしょうか。私聞き漏らしてしまったのですが、それではないですか。済みません。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 先ほどの質問は、負担金を納めて市で運用はどのように考えているかということだったかと思えます。結婚支援センター事業につきましては、県で設置いたしましたパソコンを介して個人で登録をさせていただいてマッチングを図るという処理をしているところでございます。具体的に市でということであれば、そういった御案内を差し上げて個人で登録をさせていただくという、その推奨ということになるかと思えます。現在のところそれを予定はしております。

以上です。

○4番（矢板清枝） 了解しました。

○議長（渡辺健寿） 5番望月千登勢議員。

○5番（望月千登勢） 国民健康保険でお願いいたします。国民健康保険の歳入の件でお伺いいたします。

○議長（渡辺健寿） 望月議員、文教福祉の委員ということで福祉のほうは、はい。

○5番（望月千登勢） そうですね、はい。わかりました。

○議長（渡辺健寿） 委員会をお願いします。

○5番（望月千登勢） 実は予算で調べていてお聞きしたいところがございます。実質公債費比率で大変縮小する形で努力されているのですが、パーセンテージとして8.4%とか、7.7%という数字が私の調べたところに出ているのです。さらには公債費負担比率というのが平成26年度14.9%であって、さらにそれが上がっていく様子が見られているのです。公債費負担比率が15%になると、危険ラインというか、警戒ラインだという設定が財政では出されている数字なんですけれども、今後我が市の公債費比率というのは減少傾向に向かっていく努力の中で15%を超えるのか超えないのかということをお聞きしたいと思っております。

す。

さらに、いかんべ祭についてお伺いいたします。補助金のテーマはどのようなテーマで行っていきたいかというところを設定しているのかお聞きしたいと思います。

以上2つですけれども、お願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 公債費比率の関係でお問い合わせがございました。公債費負担比率につきましては、一般財源のうち公債費に充当されて一般財源の割合を示す比率でございます。こちらにつきましては、特に15%を超えたから、危険ラインということは示されておられません。起債制限比率というのが別の比率でございますが、そちらにつきましては20%を超えると危険ラインということでございますけれども、現在この公債費負担比率については、平成29年度は15.3%というところでございますので、特段現在の段階で危険な段階にあるということではないのですが、ただ、先ほど申しましたように、今後公債費、今ピークの状況でございます。平成29年度以降徐々に公債費元利償還金の割合は縮小している傾向にございますので、中長期財政計画の中でも公債費の割合は減少していくということでございます。現実的には借りるお金と返すお金については、当然返すお金よりも借りるお金を減らしていくということで、これまで財政運用もしてきておりますので、今後ともそのような方針を進めてまいりたいと考えてございます。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） いかんべ祭のテーマということでございます。いかんべ祭の内容につきましては、先ほど市長答弁のとおり、内容についてはまだ白紙状態でございますので、テーマについても白紙状態でございます。

○議長（渡辺健寿） 5番望月千登勢議員。

○5番（望月千登勢） いかんべ祭に関してもテーマ出しはまだ白紙状態ということですので、意見としてお話しさせていただきます。定住促進の場所であるというところから、キッズフェスタとか、子育て支援のフェスティバルをするという総合計画に合わせたようなお祭りの開催というテーマ出しも1つとしてお願いいたします。

先ほどの公債費比率に関してですが、15%というところでまだ危険な状態ではないものの、多少警戒ラインだという財政上のラインに到達しております。今上がってございました市債4%という、本年度本当にこの4%が妥当であるかどうかというのは決算を見ながらでもありますが、今後その4%を減少していく方向にあるのか、今の財政ではこの4%なくして動かない状態なのか、そのあたりをお伺いしたいと思います。

さらには、いろいろな比率の目標値というものを設定して予算を立てているのか、そのあた

りお伺いしたいんですけれども、やはり将来負担比率はこのぐらいまでにしたいとか、公債費負担比率はこのぐらいまでにしたいとかいう目標値があつての財政の立案なのか、そのあたりをお願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 先ほどの4%という数字については、起債制限比率平成29年度見込みは4%、先ほど申しましたように、20%を超えた場合には危険な、危険といえますか、少し注意が必要だということですが、現段階では4%ということですので、かといって無制限に今後起債をしていくということにはできませんので、こちらの起債制限比率、それから、公債費負担比率等につきましてもできるだけ数値は低く抑えていきたい。できれば県の平均値程度には抑えていきたいと考えてございます。

○議長（渡辺健寿） 望月議員、よろしいですか。

○5番（望月千登勢） はい、ありがとうございます。

○議長（渡辺健寿） 6番田島信二議員。

○6番（田島信二） 45ページ、地籍調査4,241万5,000円、地籍調査はまだまだ続くと思うのですが、あと何年ぐらいかかるのでしょうか。

その次に、49ページ、ふれあいの道づくりですが、先ほど回答があつたのですが、その6カ所がどこか教えていただきたいです。

80ページ、農業公社運営費補助金770万円幾らになっていますが、去年よりこれは倍ぐらいになっていますが、その内訳です。

あと、83ページ、道路愛護会補助金ですか、208万円、あとは概要の8ページ、消防ポンプ自動車整備等3,018万1,000円、あと、消防水槽築造工事費何カ所ぐらいですか、これ。

あとは、先ほど食肉センターのことが出ましたが、これは何年後を目標に補助金を出しているのか。あと、1日の処理頭数が決まっていると思うのですが、何頭ぐらいやるのか教えていただければと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私からまず地籍調査事業費、45ページ、田島議員の質問であと何年かかるかということでもよろしいのでしょうか、この予算の説明ではなくて。（「どこの地区と……」の声あり）地籍調査につきましては、大木須、大里、あと、野上の一部ということで3カ所予定しております。あと何年かかるか毎年言われているのですが、それは見込みが今の現在では大変手間暇かかる、お金と人がかかる事業なものですから、現時点において

完了年のところは推測できませんので、済みません、よろしくお願いします。

続きまして、予算書の49ページ、先ほど相馬議員からあった49ページの一番下段のふれあいの道づくり事業費860万円の予定なのですが、これはあくまでも予算なものですから、予定ということで御理解してもらいたいんですが、今現在小倉、向田西二、高瀬、三箇上、曲畑、興野下一の6カ所を予定しております。

続きまして、道路愛護会の補助金につきましては、例年どおり各自治会に道路愛護会という組織が自治会単位でございまして、それに対する草刈り、道路清掃等の実績に応じた補助金でございまして、これは栃木県の道路愛護連合会から補助金が来まして、そちらを各自治会に実績に応じて配分するというお金になっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） では、私から農業公社の補助金の関係と食肉センターの関係お答えいたします。

まず、農業公社の補助金上がっているということでございます。農業公社、例年運営補助金ということで局長分の給料相当分を補助しているところでございます。ことしもその分は同程度の金額が入ってございます。さらに平成29年度につきましては、株式会社、分社化することや、それから、今後の後継者というか、その辺の育成なども含め、また、さらに課題、いろいろな要望等推進していくというところで、職員を1名増員したいということでございます。事務局長に後々なれるような人をということで、その人の分の給与に相当する分、その一部を補助していただきたいということで要望がありました。この分につきましてさらに300万程度の補助をするということで計上させていただいております。

それから、食肉センターの関係でございます。食肉センターにつきましては、頭数につきまして……。（「何年度にできるか」の声あり）済みません。平成32年度を目標にしております。場所は芳賀町稲毛田地内ということで、旧畜産試験場跡地になります。

それから、1日の処理能力ということにつきましては、昨年5月30日の、こちらは業界新聞、日刊建設工業新聞に載った記事から拾いますと、1日に豚が2,000頭、牛が65頭を想定しているということでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 消防の件。清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 予算概要書8ページの消防整備費の消防ポンプ自動車整備等でございますが、ポンプ自動車につきましては谷浅見、小型ポンプにつきましては曲畑を予定しております。来年は2台更新を予定しております。

それと、消防水利施設整備費につきましては、防火水槽を3基計画しております。ただ、これは国の補助2分の1がつくかどうか大きく影響してきますので、つかなかった場合は縮小することもあります。現在のところ、志鳥、熊田、月次、しかしながら、まだ箇所が確定していないところもありますので、これら3カ所については流動的でありますし、または国からの補助金のつく状況によりまして変更を考えております。

以上です。

○6番（田島信二） 了解。

○議長（渡辺健寿） 7番川俣純子議員。

○7番（川俣純子） 予算概要書に沿って聞いていきます。2ページの農業振興の中の中山かぼちゃブランド向上支援事業と八溝そばブランド力向上支援事業、これは具体的にどんな団体にどのぐらいの予算を考えているのか。また、八溝そばは購入に対してと書いてあるのですが、これは飲食業と書いてあるのですが、個人のお店に払っていくのかどうか、どのようなものなのか、教えていただきたいです。

その次が、商店街のにぎわい支援事業というのは、もうイベントが決まっているのでしょうか、時期とか、あと、規模みたいなものが。昨年で言えば、5月のゴールデンウィークに始まったときのような、マルシェとかいうのかな、ああいう市場的なものとか、軽トラック市場みたいなものをやる補助金なのでしょうか。

次に、3ページの子育て環境の充実で保育士就職奨励基金というのがあります。これは保育士になるための人に奨学金ということなのでしょうか。それとも、就職を図るためと書いてあるので、まだ就職していない方にも何かそういう補助金みたいなものが出るのか、または本当に保育士の賃金を上げたほうがいいという国の働きもある手前、とりあえず前段階でこれを組み入れたのか。

あと、次が、子育て世代包括支援センター総務費のいろいろなのを拾い集めてみると、予算書と概要でも違うし、具体的に包括支援センターの金額が330万円と違う金額が予算書で出てくるので、それを確認したいと思います。

それにあわせて、ページが予算書になってしまうんですが、ファミリーサポート事業がたしか平成27年の決算では274万円使っているんですが、今回平成28年、平成29年と9万円、3万円とがくんと下がっているんですが、その内容はどのようにになっているのかもお願いしたいと思います。

次が、概要の9ページ、経営所得安定対策直接支払推進事業のWCS、これは内容ではなくて、私ずっと、たしか鳥高生に絵を描いてもらったりとか、そういうのをしてもらいたいと言って2年間ぐらいは続いたんですが、その後続いていないんです。昨年の、ついこの間鳥山線

の歌をやったりとかした大学との協働のときなんかの発表には必ずこの写真が出てくるんです、高校生がやった事業として。ですから、もしもだったら継続していくと、もっとおもしろい案が出てくるのではないかと、入り口にWCSを置くとか、何か考えていただけたらいいと思っていますので、答えてもらいたいです。

あと、景観形成作物推進モデル、ヒマワリとユリとありますが、聞きますと、ユリの根がおいしくて、イノシシがそこを掘ってしまうし、そうすると、そこが餌場だと思って余計イノシシが来ると聞いているので、ユリではない、何か植物を代がえできるようなものに変えられないのか、検討していただけるかどうか。

あとは、これが予算書87ページのユネスコを記念して俳句の大会をやると出ています。推進委員会費というのがあるんですが、私自身はねりんピックのときにせっかく俳句をやったのに、なぜ何もやらないのかというのを今まで疑問だったので、ここに取り上げてくれるのはありがたいことなので、どのような事業でどのようなのを、まだ委員会だけなのか、いつから始めるのかとか、そういうのをお答え願えるとありがたいです。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） まず、中山かぼちゃブランド力向上支援事業ということで、相手先ということでございますが、こちらにつきましては中山かぼちゃの栽培そのものがJAで事務局をしておりますカボチャ部会になっております。そちらを通しての補助ということになります。それから、八溝そばブランド力向上支援ということでございます。こちらは議員おっしゃるとおり、市内のそば店と、いわゆる八溝そばと定義づけしておりますが、そちらを使って加工販売をするそば店、お菓子でも構わないのですが、そういうお店に補助するという事業でございます。ちなみに、原そばと粉によってはその量が、目方が違うのですが、1袋に対し1,000円の補助を買った方にお出しするという事業でございます。

次に、WCSの関係で、議員御提案いただいて何度かやったんですが、こちらにつきましては、昨年実際今やっている農業公社に確認しましたところ、見えるところに集積というか、積むことは可能です。ただ、その後の鳥高生徒の調整に至らなかったものですから、去年は実施できませんでした。今年またまちづくり関係の支援等もやっているようですので、そちらの御協力をいただきながら、鳥高と農業公社と調整していきたいと考えております。

それから、景観作物で、滝地区にユリの栽培をいたしておりますが、こちらにつきましてはいろいろ、手間のかからず、お金のかからずというところで模索した結果、ユリ農家の方が廃棄するユリの球根、それを無償で提供してくださるという申し出がありましたので、それを利用してやっております。イノシシの好物だということですが、今のところ被害はまだ確認され

ていません。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 予算概要書の2ページ、商店会にぎわい支援事業50万円でございます。内容につきましては、これは新規事業としまして、市内のいわゆる商店会を形成されているところが元気づいていただきたいという意味合いから、商店会等が主催するイベント等について2分の1の補助金で限度額10万円を交付して、その地域の活性化の一助にしていきたいという意味合いから本年度新たに制度をつくったものでございます。50万円につきましては、1団体10万円なので、5団体、特にどこということはありませんが、やるところ、また、計画しているところがあれば、活用していただきたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 予定しているものはありますかと。

○商工観光課長（石川 浩） 失礼しました。市で予定しているものは特にありませんので、既存の今までやっている商店会でもありますので、そちらが……。 （「申し込みとかもないですか」の声あり） 手続等については申し込みをしていただいて、計画書を出してもらってやって実績報告をいただくという形になるので、そこは交付規則にのっとりた手続になります。

○議長（渡辺健寿） 齋藤こども課長。

○こども課長（齋藤 進） 私への質問は、保育士の奨励金及び子ども・子育て世代の包括支援センター及びファミリーサポートセンターの3点かと思えます。

保育士の就労奨励金でございますが、議員おっしゃるとおり、保育士の確保が主でございます。保育士になって本市の保育士として就職していただくことを条件に奨励金を出します。その奨励金を出している期間本市で就労していただければ、その補助した奨励金は返還しなくてもいいですという内容のものでございました。これは今年度の新規事業で出させていただいたものでございます。

もう1点の子ども・子育て包括支援センターの内容でございますが、概要書では子ども・子育て世代包括支援センターは302万9,000円で計上されているんだけど、予算書上は535万3,000円ではないかという内容でございます。今般子育て世代包括支援センター、来年度新設ということで、今までやっていた事業をここに集約した部分がありましたので、前年度の対比で、見づらいところがあって大変申しわけなかったのですが、申し上げますと、まず、302万9,000円概要書に出ているものはこの包括支援センターを立ち上げるための総務費の部分でございますが、主たるものは人件費でございます。看護師を今募集しております、その人件費でございます。いわゆる事務所の機能、マンパワーの部分でございますが、

それが302万9,000円。そのほかに妊婦健診支援事業というのがありまして、これが30万2,000円でございます。これにつきましては、母子保健法に基づきます母子健康手帳の作成とか、母子管理票の策定、こういったもので、その後妊婦・産後ママサロンとか、思春期ふれあい体験などの事業がここに盛り込まれているものでございまして、この内容が30万2,000円でございます。さらに、育児支援事業が入っております。これは123万3,000円でございます。これにつきましては、出産後から子育て期の相談を行う事業でありまして、乳児世帯全戸訪問とか、養育支援の部分がこれでございます。あと、もう1つ、虫歯の予防事業がございまして、78万9,000円、これについては議員よく御理解のところでございますが、具体的には計画に基づくフッ素塗布でございまして、それを合計しますと、535万3,000円になるかと思えます。

もう1つ、ファミリーサポートセンター、平成27年度決算では当初274万円で、翌年度9万円、次年度3万3,000円、これについては当初設立のときにファミリーサポートセンターに人件費が必要ということで1名の支援員を雇用しましたので、そのものでございます。翌年度以降、今年度になります。事業開始ということで、人数も少ないことですので、職員が対応していきますということになりまして、この金額になったのですが、その9万円の重立ったものは研修費でございます。来年度3万3,000円、さらに5万円少ないのではないかと、それにつきましては、子ども・子育て支援事業というのが県で研修をやることになりまして、市でやらなくてもいいですという内容がありまして、その負担金を減らしたものでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） それでは、私からは予算書87ページのユネスコ登録記念山あげ俳句大会の実行委員会交付金100万円の御説明を申し上げたいと思います。こちらにつきましては、かねて御案内のとおり、昨年烏山の山あげ行事がユネスコの無形文化遺産に登録をされたことを記念いたしまして、この山あげ行事を全国的に知っていただくということと、山あげを俳句の独立季語として全国的に定着させることを目的といたしまして、俳句を通して交流の輪を広げ、当市のイメージアップにもつなげていきたいということを目的に全国大会を開催するものでございます。

主催は、那須烏山市山あげ俳句全国大会実行委員会ということで、市内の俳句結社の方を中心に過日実行委員会が立ち上がりました。これに対する交付金ということでございます。内容といたしましては、本年の、まだ予定でございますが、11月26日日曜日にこの全国大会を開催するという予定でございます。場所につきましては、烏山の公民館を会場としまして全国

大会を開催すると。大会の内容につきましては、募集句の部と、事前に俳句を募集する部と、あとは当日の席題の部ということで、その2部構成で大会を実施するというところでございまして、今後詳細については実行委員会と詰めていきたいと思っております。募集句の募集については今準備を進めてございまして、できれば5月の中旬から山あげ期間にかけまして7月いっぱいぐらいを予定してございまして、そういうことで全国から俳句を募集して記念の俳句大会を開催するというところでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 7番川俣純子議員。

○7番（川俣純子） よくわかりました。ありがとうございます。

保育士の就業奨励基金というのは大体何名ぐらいを予定しているのか。那須烏山市に在住の方で保育士の資格を取るようなということですよ。よそで後から烏山に勤めるからというのではなくですよ。その辺何名ぐらい用意しているのか。

あとは、WCSはなるべくできたらやっていただけると。せっかく1回やるとやはり、要するに、先輩後輩で高校生伝えていくわけですから、できたら3年生のときにやって、1年になったらやりたいと思っていたことがやれなくなるというよりは、継続していくことがいろいろな意味での烏高のアピールになると思うので、ぜひともお願いしたいと思えます。

ユリは食べられていないと言われましたけど、もう日光キスゲとかも全部シカに食べられてしまうぐらい、つぼみも食べられてしまうというので、考えた方がいいのかという感じも、場所を選ぶのかしていただけるといいと思えます。

ユネスコ登録記念の俳句は本当にやっていただきたいので、ぜひともお願いしたいと思えます。せっかくねりんピックのときに全国から集めてあれだけの大会ができて、やった経過があるので、初めてではないので、もう少しスムーズに、またいろいろなこともできると思うので、アピールにかなりなると思えます。季語になったらすごいと。今「プレバト!!」というのですか、番組でも俳句がすごい人気になっていますから、ぜひともお願いしたいと思えます。

子育てのほうは何となくわかりましたので、大丈夫です。1つ、保育士が何名かだけ教えていただきたいと思えます。

○議長（渡辺健寿） 齋藤こども課長。

○こども課長（齋藤 進） 平成28年度はこの助成を受けた方3名でございまして、平成29年度は5名でございまして、それにつきましては、継続の方2名、新規の方3名でございまして、3年間でございまして、1カ月3万円を予定しております。先ほどおっしゃっていましたが、要件でございまして、住所要件はなく、本市でその期間保育士で就労していただければいいという内容になっていまして、もしそこで就職しないで違うところに行ったら、

やめてしまったとか、そういう場合は返還していただくという内容になっています。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） よろしいですか。

○7番（川俣純子） はい。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 0時12分

再開 午後 1時00分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

8番 渋井由放議員。

○8番（渋井由放） それでは、40ページ、衛生費、保健衛生費の水道事業会計繰出金4,357万3,000円です。この水道事業については特別会計でやっているわけですが、多分簡易水道を統合しているので、この繰出金が使われるのかと思います。この繰出金というのはいつまで出すことができるのか、その辺についてお答えをいただければと思います。

あと、41ページの環境衛生費の浄化槽の設置事業3,952万9,000円です。いろいろな種類はあるんだと思うんですけども、何人槽とかいうことがあるんだと思うんですが、全体で何台ぐらいこれを見込んでいるのか、お知らせいただければと思います。

あと、45ページになりますが、これからは農林水産費ですか、団体営土地改良が637万4,000円で、市単独土地改良事業は400万円。場所はどんなところで、どんな工事をするのか、どんな改良をするのかお知らせをいただければと思います。

次、46ページの林業費です。林業総務費、林道維持管理費に554万3,000円。どんな内容、どの路線をどんなふうにするのかお知らせをいただければと思います。

あと、80ページの豊島区交流事業の参加費というのがゼロ円になっておりますけれども、これは参加どんなものだったのか、参加して、なぜ参加しなくなったのか、今度こういう費用が発生しなくなったのか、その辺のところ。

あと、81ページの県営基幹水利ストックマネジメント事業負担金ということで、多分これを読みますと、県営の基幹水路があって、その集積されたもの、その事業に関して何らかの対策なり工事なりを行うのかなと読み取れるのですが、どのような事業なのか端的にお知らせいただければと、このように思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 奥澤上下水道課長。

○上下水道課長（奥澤隆夫） それでは、渋井議員からの質問に答えさせていただきます。

まず、40ページの水道事業会計繰出金につきまして、議員からもおっしゃられましたように、南那須地区、七合地区、平野地区が現在水道事業を統合しております、それに関する当時の建設費の起債の償還金になっております。それにつきましてはあと30年ぐらいかかるといふことで、その水道事業の経営にもかかわるとは思うんですけども、必要事項だと考えております。

次に、41ページの浄化槽設置基数、年間89基でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） 私からは農地費です。まず、45ページ、団体営土地改良、それから、市単独土地改良ということでございますが、団体営土地改良事業につきましては、西の原用水地区について県営農業水利施設ストックマネジメント事業の負担金ということでございます。場所は、那珂川町から那須烏山市に通じる用水路の改修で、1.53キロメートルの水管橋の改修ということでございます。こちらについて市町負担分のさらにその面積割で那珂川町と那須烏山市が割合によって折半することになっておりまして、その負担金となっております。それから、次に、市単独土地改良事業につきましては、今のところ要望いただいている箇所が荒川南部土地改良地区内で、高瀬地内の用水取水口、それから、大里地内の樋門の設置、それから、烏山土地改良区で上境地内の堰の改修、それから、南那須土地改良区の中で三箇地内の揚水機場の導入と藤田地内のポンプ改修、それから、向田地内の共同施工ということで向田地内とそのほかの若干の余裕を見ての補助金でございますが、それに350万円、そのほかに原材料を支給する制度がございますので、それに50万円で、合計400万円の計上となっております。

次に、46ページの林業総務費でございます。林業総務費の林道維持管理費につきましては、主なものは、林道の日常的な草刈り等の委託業務ということでございまして、これに95万9,000円、それから、今年度新しく計上しましたのが、林道台帳を整備していく、その前段で、林道にかかる橋梁点検業務委託というのを予定しております。これに400万円の計上をしております。その他事務費等でございます。

次に、豊島区交流事業の中の参加費負担金がなくなったということでございますが、こちらにつきましては、その事業等がなくなったということではなく、今まで1団体にのみこの参加費の負担を市でしてございました。その1団体は農産物直売所関係の団体で、市でお願いしていた経緯がございますので、出してございましたが、ほかの団体でも希望によって参加することが可能でございまして、ほかの団体で、実際自腹で負担金を払っていた団体もございます。その辺もございまして、さらに農産物直売所でもいわゆる高齢化等でなかなか行くのが大変だと

いう話も出ておりますので、改めて新年度は公募するような形で、広く募ったような形で、行く人は行ってくださいということで、負担金は御自分でというお願いをしたいと考えております。

続きまして、県営基幹水利ストックマネジメントの負担金でございます。こちらにつきましては、芳賀台地内でその水利施設のストックマネジメント事業というのがあります。こちらにつきまして、市町村ごとの受益面積による負担割合がございまして、合計で3,000万円のうちの那須烏山市では5.53%の負担ということで知らされておりますので、その負担でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 8番 渋井由放議員。

○8番（渋井由放） 1つ驚いたのが、水道事業会計繰出金4,300万円がまだ30年繰り出していくということで、私あの世に行きそうだなという感じがしました。それで、あとは浄化槽設置89基、あと、林道台帳整備ということで、橋梁点検業務、これについてはどんな内容で誰にというか、設計屋とか工事屋とかあると思うんですけど、どんなところに委託というか、依頼をする予定というか、考えなのでしょう。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） そこにつきましては、市の指名選考委員の名簿にあるもので通常の選考をしていきたいとは考えております。こちらにつきまして申し添えますと、国の補助、県の補助がつく可能性のある事業でございまして、そのつくのが平成29年度及び30年度までの実施ということになっております。平成29年度にもしその補助がつかない場合には平成30年度に見送ってその補助を仰ぐという考えでおります。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 8番 渋井由放議員。

○8番（渋井由放） 難しいのかもしれませんが、点検業務は工事屋なのか、測量屋なのかというか、前に話をしたことがあって、工事屋も経験があるので、こういう橋梁点検できるのではないかと私を言ったことがありますけど、その辺はこれからということで、ぜひとも地元の建設業者も橋をつくったりなんかしていますものですから、お願いできればという希望を言って、あと、豊島区の交流事業の参加費ということですが、もともとは旧南那須のころからあったのかなと思うんです、この事業はきっと。南那須でこの豊島区との交流のために行ってくれと、農産物直売所をお願いして行っていたのですが、これからは広く公募をかけて、こういう事業があるんだから、これだけのお金を払えばできるのだから、行ける人は行ってねということで間口を広げようということなのですか。再度確認です。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） 公募と申しあげましたけれども、公募といってもそれほど、お知らせ版に載せるとか、広くというところ收拾がつかなくなってしまう可能性もあるかと思えます。それにつきましては、今後豊島区の要請があつて、方法等詰めていきたいとは考えております。

○8番（渋井由放） 了解しました。

○議長（渡辺健寿） よろしいですか。

○8番（渋井由放） はい。

○議長（渡辺健寿） 11番高德正治議員。

○11番（高德正治） では、那須烏山市予算概要書からお伺いをいたします。

1つ目は、10ページ、先ほど同僚議員の質問にもありましたが、ジオサイト烏山城跡整備費で850万円、これは関東ふれあいの道づくりで整備しますということをお伺いましたが、築城600年ということで、林道、神長滝田線、霧ヶ沢から上がっていくと、ちょうど700メートルか800メートル行くと頂上に近いのですが、そこから30メートルか40メートルおりていくとお城の跡に続きますので、これからは車で上がって駐車をして歩いて行けるという方法も必要ではないかと思うので、その辺をお伺いいたします。

あと、22ページで、学校給食センター運営費、平成29年で9,536万9,000円、808万円の増額になっています。この内容をお伺いいたします。

あと、18ページ、私立保育園施設運営委託事業費、2億6,611万3,000円、これは3,904万8,000円の増額になっております。この内容をお伺いいたします。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） それでは、私から予算概要書10ページのジオサイト整備費850万円。こちらにつきましては先ほど相馬議員からのお問い合わせにお答えしたところでございますが、高德議員御質問は、多分西側の林道から、確かにそちらから入りますと非常に近いということになってございます。あそこは古本丸、本丸からその西側に西城というところがございまして、まだそちらは今後調査の予定もございまして。それで、特に国の史跡を目指して現在調査中でございますので、まだ、そういった遊歩道の整備につきましては史跡の調査が済んでから、その後に、確かに非常に林道から近いので、そういうのは有効だと思いますので、そういうのを検討させていただきたいと思ひまして、現在は、今回はあくまでも既存の遊歩道が整備してある部分の再整備を行いたいということでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 学校教育課では給食費の増額の理由ということでお答えしたいと思います。平成29年度、学校の給食用の食器類なんですけど、大分古くなってきているということでございますので、2カ年事業、平成29、30年事業ということで、食器及びトレイ等の改修をやろうということで計画しております。平成29年度については食器の改修ということで現在580万円ほど見ております。

それと、平成29年度委託業者が、期間がちょうど切れる時期ということでございますので、その分300万円程度金額は上乘せして現在見ております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 齋藤こども課長。

○こども課長（齋藤 進） 18ページの私立保育施設運営委託事業費3,940万8,000円の増額でございますが、マリア幼稚園が認定こども園化しますので、今まで幼稚園だったんですけど、保育園の部分がありますので、その委託料でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 11番高德正治議員。

○11番（高德正治） では、再質問させていただきます。烏山城の史跡があるということで、県、あるいは国の指定史跡の方向性はいつごろ予定しているか、もしわかれば。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） 烏山城跡の史跡の指定の予定でございます。今までに平成21年度から25年までの調査を行っております、上の本丸、古本丸の部分でございますが。それで、昨年度からまた国の補助事業を入れながら平成29、30、31年度、29年度から3カ年度調査を行いまして、次の年にした調査の整理を行いまして、早ければ平成33年度に国の史跡の指定の申請を行いたいという、現在のところ予定でございます。

○11番（高德正治） 以上。了解いたしました。

○議長（渡辺健寿） 12番佐藤昇市議員。

○12番（佐藤昇市） それでは私も予算概要から何点か質問させていただきます。

まず、商工費、20ページ、上段にあります。そこに、私もわからないのですが、龍門の滝の周辺整備費、平成28年度があったのですが、29年度、国見もそうなのですが、管理費がゼロになっていて、その下にある公園等観光施設運営費というところが、その分でなんだか知らないのですが、ふえているんです。それとこれが同じなのかどうか、確認の意味で聞きたいと思います。

あと、その下に大金駅前観光交流施設整備費というのがありますが、これが予算には関係ないんですが、お客さんというか、あそこに来る人があそこで何かコーヒーでも飲みたいなど

というのがおおむね父兄の方の御意見なのです。セブンイレブンみたいにコーヒーを飲むのには保健所の許可が要ると前もそういう話も出ましたが、そういう保健所の許可があればコーヒーなんか100円で飲めるので、それぐらいのことはできないのかどうか、そこを確認しておきたいと思います。

あと、その下の土木費。ふれあいの道づくりはもう何人かの同僚議員も質問しました。平成26、27年、ことしと6件、7件、6件ということで、大体1,000万円からことしの860万円も含めてですが、私はこれは再度確認したいのですが、6件でことしは八百六十何万円の予算がついていますが、1件当たり、これは値段に限度があるのかどうか。確認の意味で聞いておきます。

あと、教育費です。21ページです。ここの中でスクールバス運行費。特に五、六%はみんな上がっているんですが、私の勉強不足で申しわけありません、境小学校スクールバス運行費と荒川小学校スクールバス運行費が23%と24%ということで上がっています。その説明をお願いしたいと思います。

あと、武道館がことし外構工事をやって大体今年度は終わるんですが、武道館の使途、使い方、本当に武道館あれだけの立派なものできて、剣道と柔道、空手もそうなのでしょうけど、それ以外に使い道はあるのかなのか、そういうことは考えられないのか。先ほどエアコンの問題も出ました。私はもったいないという観点から、旧江川小学校に空調機がいっぱいあります。そういうものも含めて、何か使えるもの、できないのかどうか。もったいないです。あれは売ってしまうのですが、どうなるか私もわかりませんが、まだ設置して間もないエアコンというのはまだまだ使えると思うんです。ああいう使い道も含めて何か足りないところに入れるとか、そういうこともあってもいいのかと思うんですが、考え方をお聞きかせ願いたいと思います。

あと、農政の予算書の補助金の中にずっとありますけど、その中でも農産物ブランド化推進事業費補助金30万円、あと、栃木の園芸活力創造総合推進事業費補助金182万円の内訳を説明していただきたいと思います。

あと、水道事業について1回お願いしたいと思います。水道事業は予算上は何ら問題ないんですが、平成27年度、有収率69.1%、26年度は68%ということで、少しはよくなっているということでございますが、予算上に何も無い排水管布設がえとか、漏水に関してはどうなのか。まず、水道は災害時に断水することが一番困るのです。そういうことで、排水管の布設がえもいっぱいあるのですが、導水管、送水管、そういう関係は今全然予算には載っていないんですが、そういうことも含めて、そういう断水、災害時に機能した、耐震になっているのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 予算概要書20ページの商工費からお答え申し上げます。公園等観光施設運営費889万3,000円、昨年と比べて伸びているということでございます。こちらにつきましては、その資料20ページの公園等観光施設運営費の上の龍門の滝周辺施設観光費及び一番上の公園観光、あと、JR烏山線沿線の観光の部分の課目を、事業費を統一して1つのものにまとめたものですから、事業費として伸びているというふうに見えます。なお、公園等観光施設運営費の中身なのですが、一般的にせせらぎ公園、花立公園、龍門の滝公園等の草刈り、また、電気料・水道料等の維持管理費及び土地の借料がございます。新たなものとしましては、山あげ会館前の烏章館の北側にあります倉庫のシャッター修理ということで140万円を新規に設けているところが増額の理由となっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私どもは同じく20ページのふれいあいの道づくり事業費についてお答えします。議員の質問ですか、1カ所当たりの限度額があるのかどうかということなのですが、基本的に限度額はないのですが、予算の範囲内で執行しているのですが、現実的にはあくまでも地元が主体で、材料費と、あと、機械のリース料しか出ないものですから、それ以外の費用というのは本当に受益者が負担しているのが現実でございます。ですから、一応やり方としましては、地元の代表者と打ち合わせをさせていただいて、地元で出せる範囲というのはその年度で限りがありますので、その辺を突き合わせしてやっているのが現実でございます。基本的な限度額はございません。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長、大金駅前交流館のコーヒーショップはどうかという。

○商工観光課長（石川 浩） 漏れました。大変申しわけございません。大金駅前の観光交流施設のコーヒー等飲めるようなスペースがということなのですが、現実的には今現在商売ではないのですが、インスタント等置いて何か供給していることはあるらしいです。ただ、スペースとしては確保しておりませんので、そこら辺は指定管理者と相談させていただきながら検討していただきたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） スクールバスの運行費の増額ということでございますが、スクールバスについては平成28年度は市でシルバーの方を雇いまして、費用をそちらから出していたということでございまして、事務局費で見ていたわけなんです、今回シルバーについ

ではシルバーで直接それを受けることができるということになりましたので、シルバーに対する委託費用ということで各学校のスクールバス費に計上したということでふえているものがほとんどでございます。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは武道館の運営につきまして利用方法について武道だけなのかというお問い合わせだったかと思います。これにつきましては何回かお答えしているところなのですが、武道が主にはなると思うのですが、あいているときにはダンス等、板の間につきましては上履き等を使用しない運動も使用していただけるように調整はしたいと思えます。そのほかに、昼間稼働がないということもございますので、そのほかの利用方法についても検討させていただきたいと思えます。

もう1点、空調設備について、旧江川小学校のエアコン等はどうなのかという御質問だったかと思うんですが、その辺については学校教育課と、使用に耐え得るかどうかというところもございますので、協議をさせていただきたいと。それによってもし、導入費用も発生するものですから、その辺も検討させていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 奥澤上下水道課長。

○上下水道課長（奥澤隆夫） 水道事業の有収率の低迷といえますか、に関しましては、まず、導水管、配水管に関しましてはまだまだ材料費の関係で耐震管にはなっておりません。これから老朽管更新事業になっていくと思えますので、それに関しては経済性を考えていきたいと考えております。また、漏水に関しましては、主に各個別の給水管の配水管のところからの漏水が主なものになっておりまして、それに関しては漏水調査をしながら対処していきたいと考えております。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 先ほどの武道館関係の御質問の中で旧江川小学校のエアコンという御質問がございまして、私でお答えしたのですが、中身が違っておりましたので、訂正させていただきます。旧江川小学校のエアコンにつきましては、売却予定のリンレイ株式会社でそのまま利用するという予定だそうでございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） 私からは補助金2本について御説明いたします。

まず、1つが農林水産特産物ブランド化推進事業補助金でございます。こちらにつきましては、特産品の販路拡大を支援するものと、それから、特産品の再生産支援事業ということでそれぞれ2団体ずつ10万、5万ということで予算を計上しております。特産品の再生産につき

ましては、過去10年実施してきました特産物開発事業の15団体いるうちの、その方たちの中から再生産を希望する方ということで募集しております。ちなみに平成28年度は実績はございませんでした。

それから、次に、とちぎの園芸活力創造総合推進事業費補助金でございますが、こちらにつきましては、JAなす南が実施しますこの事業について、梨棚について希望があるということでございます。こちらは補助率10分の4以内ということで県費になります。この分の補助でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 12番佐藤昇市議員。

○12番（佐藤昇市） 今1回目の答弁をいただきまして、大変わかりやすく聞かせていただきました。その中で、水道事業はお金がかかるということで、今回の予算には何ら問題がないんですが、結局当初から計画を立てるということで、この水道の老朽化の面も含めてそういうことがありましたので、少しずつやっておかないと、大きなお金のかかる水道事業です。だから、そういう計画をもって早目に一番やらなくてはならないのかなと、これから一番お金がかかりますから、延々と不滅ではないので、すぐにこわれてきますので。特に震災とか、ああいうときはもう何だかんだ配水管よりは導水管と送水管なんです。水を上げることが大事なんです。配水管に入ってしまうと、あとは何とか時間も少なくなるのだと私は思っていますので、そういうことが大事だと思います。配水管はそれほど面積、長いものもあるのですが、やはり一番ポンプを水源から上げる、また、それを送る、そのところが耐震化しないと震災に耐えられない、何時間も断水するということになると思います。ぜひそういう計画を前もって早目にやっていただければと思います。

もう1点、1回目質問するのを忘れたのですが、この間指定管理で藤田のいちご園とパン工房、指定管理から抜けました。そういうところで、いちご園はとりあえずハウス等いろいろなものがある、パン工房も建物と中に物品があるということでございまして、今後指定管理料のかからない、その人が借地の畑も自分で契約するというところでございまして、そのいちご園のハウス等はもうただでやるという考え方でよろしいのでしょうか、確認しておきます。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） ハウスの処分でございますが、まだ詳細に詰めてございませんが、残存価格というものもありますので、その辺を考慮して折衝したいと思っております。ただとは言い切りません。多少の金額をいただくことになるかもしれません。まだ決定はしておりません。

○議長（渡辺健寿） 12番佐藤昇市議員。

○12番（佐藤昇市） なかなか観光いちご園もやってもらうということなので、今まで補助金があったのがなくなるんですから、そこはきちんと活性化のためにも格段の措置でやっていただければと思います。あと、このパン工房はどうなるか。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） パン工房が入っている建物につきましては、一応貸借ということで進めております。建物を貸すということで進めておりますが、使用料規定というか、使用料、公有財産であります。相手の方が社会福祉の関係ですので、減免規定がありますので、そこに照らし合わせて最終的に家賃はゼロという形になるかということで考えております。

○議長（渡辺健寿） よろしいですか。

○12番（佐藤昇市） はい。

○議長（渡辺健寿） 13番沼田邦彦議員。

○13番（沼田邦彦） 新年度予算議会ということですので、あえて市長の考え方を何点かお伺いしたいと思います。予算概要から予算規模についてを2点、交流人口の増加促進の見通しについて1点、合計3点伺います。

合併をして12回目となる予算編成でございます。1番ボリュームがあったときには平成23年127億6,000万円と膨れましたが、新年度は110億円に抑え込み、縮小されております。並々ならぬ御苦勞があったかと思えます。率直に最大の苦勞はどの辺にあったのか、お伺いをいたします。

2つ目、110億円の予算はまず1つの節目でもあり、通過点だと考えますと、いわゆる100億円予算の規模の予算に移行していくには今後どのぐらいを想定されているのか、財政規模の見通しについても伺います。

2点目、交流人口の増加促進の見通しについて伺います。一部まちづくり課も関連はしますが、交流人口の増加、市長の考え方を伺うもので、あえて質疑をさせていただきます。JR烏山沿線のまちづくりと地域の学校を核とした地方創生事業を含め新規事業2点、目玉事業として4点示され、約1,500万円が計上されております。特に新規事業の2点におきましては、今までになかったJR・高根沢町・民間企業・地元両高校を含む理想的な最高の枠組みとなり、大いに期待しているところでございます。さらにはユネスコ無形文化遺産登録後初めてとなる山あげ祭など背景的に好循環に入ります。そこで伺います。那須烏山市の交流人口、年間45万、46万と言われております。過去には60万以上を記録したことがあるようですが、新規事業、これらの要因を含め、新年度の交流人口をどの辺に目標を定めているのか、何万人、何十万人の増を目指すのか、お伺いいたします。

○議長（渡辺健寿） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 予算総額が110億4,500万円、前年度対比で3.8%の減ということになりました。このことについては、過去110億円台というのは12年間ございせんでしたので、大変財政当局、課長以下苦労があったことを御報告申し上げたいと思うのですが、その中で、市長裁定の中で一番苦労した点ということでございますが、どうしてもこのような少子高齢化、そして、人口減少時代でございますので、そのようなところから、そういう1つの扶助費と言われる福祉・教育・医療、そういったところには必然と義務的な経費が発生してまいりますから、それはどうしても満たさなければならない、そういう思いから、それを捻出するためにはいわゆる投資的経費を削減する、そして、この人件費を初めとする、そういった1つの多額の費用がかかっている、経費がかかっている、そういったところの削減を目に見えるものにするることによって110億円台が出るということだろうと思いましたので、そのような投資的経費と、より人件費を抑制する、そういったところの削減に努めたところでございます。

先ほど地方創生の点に触れられましたけれども、平成28年度中には官民、いろいろな民間の皆さん、金融機関の皆さんと地方創生、JAなす南ともそうでございますけれども、地方創生に関する総合戦略の連携協定を結ばせていただきました。また、安全対策の面から、NEZASグループとも連携協定を締結させていただきました。昨年10月には御指摘の那須烏山市と高根沢町、JR烏山線沿線まちづくり推進協議会の地方創生のもと協議会を1月に発足させたということでございます。

そういったところと、昨年12月1日にユネスコ無形文化遺産に登録されたといった1つの明るい話題、そういった契機によりまして観光交流人口を大いに引っ張ってこようではないかという取り組みでございます。それが今までの、6つぐらいになると思いますが、官民挙げた、自治体も、広域連携も含めた地方創生の戦略に基づく、この交流人口増加の協議会を立ち上げたということでございますので、このことについてはKPI、実績報告も出しておりますので、その目標に向かって交流人口を増加させたいという思いでございます。

交流人口の予想については、高根沢町との連携協定によってKPI等も出ておりますので、担当課から報告をさせたいと思っておりますので、ひとつよろしく申し上げます。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） JR烏山線まちづくり推進事業の中で、ここでは地方創生の推進交付金を活用しておりますので、KPIということで、観光客の入れ込み数を設定してございます。平成27年が46万7,669人でございますが、これを平成30年の時点で65万人ということで、約20万人の増加を見込んでいるということでございます。（「100億円規模の予算、どのぐらい想定しているのか」の声あり）

○議長（渡辺健寿） 沼田議員、総務委員会で数字的なことはよろしいですか。

○13番（沼田邦彦） 了解です。

○議長（渡辺健寿） 14番樋山隆四郎議員。

○14番（樋山隆四郎） 下水道事業で、歳入の中で使用料が4,100万円しかないんです。これはページ数で190ページ。それで、全てのもので、歳出で、これは4億1,000万円というのです。使用料が10分の1。これでどうするのか。

それから、もう1つは、他会計からの繰入金で2億2,900万円、これはずっと続くのか、あと何年ぐらい続くわけか、この事業が完了するまで。

それと、もう1つは、この歳出は、4億1,000万円になりますか。私は計算できないのだけど、歳入歳出が一緒になる、誰か電卓できる人はやって。9,000万円だろう、それから、1億2,800万円だろう、1億9,000万円だろう、あと、114万1,000円だろう。誰か出たか、計算。電卓があればやってくれる人いないか。出たか。何だ、誰もやっていないのか。電卓得意な人やってみて、早く。総合政策課長、出たか。

○議長（渡辺健寿） 数字はそれで整っているようであります。

○14番（樋山隆四郎） それならいいんです。私はそういう計算できなかったものだから。それにしても他会計からの2億2,930万円という金額、これを何年ぐらい出すのか。

○議長（渡辺健寿） 奥澤上下水道課長。

○上下水道課長（奥澤隆夫） 確かに下水道会計の繰入金、2億2,936万円入っております。それに関しましては、下水道の起債の償還元金及び利子、あと、維持管理費と総務人件費及び事業費の人件費があります。この償還元金に関しましては、先ほど樋山議員からもお話がありましたように、まだ管渠事業が続いておりまして、それに関してまだまだ多数年償還していかなければならないと考えております。（「何年間、この2億2,000万円」の声あり）年数に関しましてはまだまだかかるかと考えております。（「まだまだというけど、それでは困る。何年返さなくてはいけないのか、一般会計から入れなくてはいけないのか。予想がつかないというわけか」の声あり）はい。

○議長（渡辺健寿） 奥澤上下水道課長。

○上下水道課長（奥澤隆夫） この場で何年と申し上げたいのですが、議員の言われる予想がつかないということでございます。

○議長（渡辺健寿） 14番樋山隆四郎議員。

○14番（樋山隆四郎） 予想がつかないのは困るけど、これからの財源の問題、この財源をこういうところにどれだけかかるのかわからない事業では困るんです、事業自体が。本来ならこの事業は幾らというところからスタートするわけだけど、下水道に関しては1回エリア

を狭めているんです。1回エリアを狭めて、それで、早ければ総工費幾らぐらいのことができるわけなんです。そうすると、この予算の範囲内でやっていくには、果たして何年かかればそれができる、それと、それにぶっ込んだ金が一般会計、他会計からの繰入金、それがどのぐらい早ければ下水道事業にとられるのか。そうすると、一般会計からどういうことかという、ほかのサービスがあるんです。それは消費的経費とか、投資的経費とか、こういうものにとられていくんです。そうすると、一般会計の予算があってもその分だけ使えないわけです。だから、私はどのぐらいになるのか聞いてみたんですけど、とりあえずきのうの一般質問ではないけど、歳入面は、これはまだまだ減っていくわけだから、そうすると、あと10年で終わるのか。そうすると、そのときに今度は一般会計の中の歳入はどんどん減っていくわけです。そうすると、その規模がどのぐらいになるのか。その中で今度は2億何千万も早ければそこからとられてしまうという、これはなかなか社会保障費だとか、いろいろなものを含めてぐっと減るわけです。だから、これは早ければできるだけ、何年かかるか、それと、これからどのぐらいの他会計からの繰り入れが必要なのか、その辺も、きょうはできないというか、何年かかるかわからないというのだから、それはできないから、後で調べて、私に出してください。

終わりです。

○議長（渡辺健寿） では、後ほど樋山議員に資料を提供してください。

17番小森幸雄議員。

○17番（小森幸雄） 中山議員がこのあといっぱい抱えているようでありますので、先にやってよろしいという許可がありましたので、17番小森ですが、二、三点新年度予算の関係で質問したいと思います。まずは、この基本目標とって居心地のよい安全なまちづくりとか、あるいは安心して暮らせる思いやりのあるまちづくりと、こういうきれいな言葉で、非常に耳ざわりのいいのが書いてあります。だがしかし、先ほど3番の滝口議員からも指摘があったのですが、高齢者に対する予防接種の減とか、健康管理の件、私も去年多分この場で言ったかもしれません。去年は文教福祉常任委員だったから、言えなかったのですが、温泉の1日入浴券が昨年減額して、非常に不評であります、今でも。私もそれ以来温泉行って皆さんに言われるものだから、温泉拒否になってしまって、なかなか行く機会を逃している状況がずっと1年間続いております。いつか行ってみたいと思うのですが、そろそろ皆さん忘れてくれるといいなど、減額された部分。

それはそれで、学校にいじめがあるようでありますが、行政にもいじめみたいなものがあるのではないかと。要は今言った温泉の問題と、ことしまた減額された予防接種関係、あるいは、健康福祉課長、2年目ですよ、まだ1年ですけど、新年度は。次また何か考えているのかと。例えば、敬老福祉年金を削るとか、敬老祝い金をなくすとか。それはこの高齢化に

向かって非常に敬老会関係も巨費を投じているわけです。自治会にお願いして、本当は市がやらなければいけない部分を各自治会にお願いして敬老会か何かやっている。第3弾何かあるなら早目に言っていただいたほうがよろしいかと、この予算を見ながら考えたわけであります。

本筋に入りますが、まず、教育関係なのですが、54ページのサタデースクール関係。これは自分の所管のときには委員会で言いましたが、これも何年も続いておりまして、新年度何人ぐらいで、全体の何%の子供たちを予定している事業なんですかということが聞きたいわけであります。

続いて、55ページに小学校費があります。小学校の新年度、4月から始まります。各学校の生徒数ずっと、小学校5校あります。これをお示しいただきたいと。人数です。

さらに、臨海自然教室、銚田市にあります、これはとちぎ海浜自然の家だと思うのですが、これについても毎年本市の小学生を対象に行っているようでありまして、合併前からこの事業は続いている事業だと思います。このとちぎ海浜自然の家も、多分私の記憶から申し上げるならば、渡辺文雄知事当時の海の家、栃木県海なし県でありますから、子供たちに海の気分を味わわせるという意味も含めて、海に親しむということで当時銚田市につくった施設だと思うのですが、この利用状況、本市だけではないと思うんですが、県内全体で、利用していない自治体もあるかもしれませんが、わかっていたらば、どこの市町村はここを利用していないとか、本市は県から強く言われて、なるべく使ってくださいと言われていたから、使っているのか、あるいは自主的に子供たちの情操教育にこの自然の家を利用しているのか、この利用状況、全小学校対象なのか、あるいは毎年順番でローテーションを組んでやっているのか、その辺の部分についてもわかりましたら、お願いをいたします。

以上であります。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 高齢者をいじめているわけではございません。毎年高齢化、どんどん高齢者がふえてきているという中で、財政負担かなりのウエイトを占めているということで、健康寿命を伸ばすのが私どもの仕事ですし、職員として那須烏山市の寿命も伸ばすのも仕事かなということで、いろいろ制度を決めるときは毎回検討させていただきまして、適正な負担というか、負担していただける分については負担してもらいながら、健全な財政にしていければと考えております。決して高齢者をいじめているわけではございませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、まず、サタデースクールから申し上げます。サタデースクールにつきましては、平成28年度実績を申し上げますと、小学生が215人のうち

122名ということで、56.7%、中学生が242名のうち129名、53.3%、合わせますと、全体で457名のうち251名ということで、54.9%の参加ということでございました。29年度においても同様の参加があればということでございます。

続きまして、小学校の新年度の生徒数でございますが、学校別に申し上げます。江川小学校、現在170名、荒川小学校305名、境小学校82名、烏山小学校446名、七合小学校176名でございます。合計1,183名が小学校です。中学校はよろしいですか。（「中学校はいい」の声あり）はい。ということでございます。

それと、とちぎ海浜自然の家でございますが、最初は県の施設ということで補助金が出た事業ということでどこの市町村でもやっておりました。那須烏山市につきましては、補助がなくなっても5年生を対象に全小学生が行っております。県内の利用状況でございますが、細かいところは把握しておりません。ただ、何市町かにつきましては行っていないというところもございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 17番小森幸雄議員。

○17番（小森幸雄） わかりました。決して高齢者をいじめているわけではないということでもよくわかりましたので、その旨は温泉でも行ったらば、私からも聞かれたらば申し上げておきたいと。

今サタデースクール関係の利用状況が出ました。これによって、ただ、土曜日の時間を割いて、バスをまた別に回していただいて、子供たちがこれでかなり学力が向上していると私も思っていますけど、一方で、よく中山議員が言う、学力テストでどうたらこうたらという問題もありますが、これは平均で54%ぐらいですから、もう少し、スペース的にどうなるかわかりませんが、もう少し受講者というか、利用者というか、サタデースクールに参加する人数がふえればよろしいかと今数字を聞いて思ったわけではありますが、これについてこの促進方、教室はどういうふうこれを学校側に、あるいは父兄にサタデースクールのメリットを伝えていくのか、この辺についての考え方がありましたら、お聞かせをいただきたい。

小学校の数わかりました。この中で複式が発生するような学校が今年度は、新年度はないけれども、ここ二、三年後には起きる可能性があるのかないのか、この辺についてお伺いしておきたいと思っております。

海浜、これについては、以前は県の補助金が出ていましたから、どこでも利用していたと。我が市は県の補助金がなくなっても5年生を対象に全校で利用していただいている。これは恐らく1泊2日か2泊3日ぐらいで行っていると思うのですが、これで子供たちの、海なし県ですから、海に親しむという観点から、子供たちはこれによってどのような川と海との関係で、

体力はもちろんでありますが、学習の面でも行ったと行かないでは差が見えるのか、その辺についてはどういうふうに、投資対効果とまで、教育にそういう言葉はふさわしくないかもしれませんが、このとちぎ海浜自然の家を利用してどういう利点が得られたとかありましたらば、お示しをいただきたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、サタデースクール、それから、小学校の複式学級、それから、とちぎ海浜自然の家の教育効果と、3点かと思しますので、お答えいたします。

サタデースクール事業につきましては、参加人数が50%を超えるような状況で、非常に参加者も多くなってきているということでございます。ただ、議員からの御指摘もありましたように、使っている旧向田小学校の教室がほぼ現在で満室状態という状況になってきておりますので、今後人数的にふやしていく場合を考えますと、別な施設、学校なり何なりを考えていかなければならないのかなという状況にあります。これは事実でございます。私といたしましては、昨年度から、数もそうなのですが、中にはアンケート調査の中では保育園のように扱っている保護者がどうも若干見られる。つまり、預かってもらっていただければいいというアンケートの結果も出てきております。それにつきましては、学校長に募集する段階で「やる気のある子いっしょに」というキャッチフレーズで集めてくださいと。ただ、どんな子であっても希望があった場合には受け入れてくださいという方法で現在やってきている状況でございます。今後につきましても、動向等見ながら、教育効果が上がるような、少人数教育が教育効果があるというのは1つの事実でございますので、満杯状態でやっても、しかも、最初はほかの学校からの生徒と一緒にするという緊張状態もありますので、その辺について今後施設、それから、参加人数等について考えて参りたいと考えております。また、学習状況調査等の関係を見ると、私なんかは参加学年を5年と中2にしたいという部分もあるわけですが、4月になると、すぐ学習状況調査になってしまいますので。ただ、やはり6年生は中学校への移行期間の中で心の準備をさせると、小学6年生は他校の生徒と一緒に同じ教室で勉強する。中学生については少しでも安心して高校受験を受けられるようにという側面も当然ありますので、それについては変に学習状況調査の点数にこだわらずに、現状の6年、中3で行くべきではないかと、そのように考えております。

それから、小学校の複式学級につきましては、来年度、正確な人数というのはまだ確定しておりませんが、1年生が193名だったと思います。複式についてはここ数年ないわけですが、一番小さい境小で10名ちょっとですから、ただ、今後の人口動向を見てもしばらくの間は複式まではいかないで済むのかなという状況で見えております。複式が2年続いた場合は統廃合の対象とするというこれまでの取り決めもあるわけですので、できるだけそうならないで済めば

いいなと私自身思っているところではございます。

それから、海浜自然教室事業ということ、自然の家での1泊2日の研修ということになりますが、塩谷南那須地区ではもう事務所から、これは県から来るのですが、日程が南那須地区のここは何日から何日の間に行ってくださいと決まってくるので、一応全部参加ということで、塩谷南那須教育事務所管内は実施しております。

一番大きな教育効果的な部分は、集団の生活になれるという、修学旅行もそうなのですが、修学旅行はどうしても旅行という部分に観点が行ってしまいますので、こちらは一応学習に行くという状況ですので、そういった集団生活の中で学びをする。あと、御存じのように、残念ながらあそこは遊泳禁止地区なものですから、急激に深くなっていますので、海の中に入るとするのは難しい部分もありますけれども、それでも海なし県の子が間近に、波に触れて、そして、塩づくりなんかを体験するというところで、そういう意味では新たな経験をする。また、現在向こうの担当官で行っていますのが、去年の春に七合小学校を退職した川原校長が行っておりますので、そういった部分でも非常に身近に感じて、自然はもう身近に、そして、人間的にも身近に、安心して勉強していけるのではないかと、そういうふうに思っております。

以上です。

○17番（小森幸雄） 了解です。

○議長（渡辺健寿） よろしいですか。

○17番（小森幸雄） はい。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時12分

再開 午後 2時25分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

18番平塚英教議員。

○18番（平塚英教） それでは、何点か当初予算に対して質問してまいりたいと思います。

同僚議員が何回も質問しておりますが、この概要の3ページのジオパーク構想推進事業費1,834万6,000円でございますが、認定を目指すということとともに、平成30年度に築城600年を迎える関東有数の山城烏山城址の重要なジオサイトと位置づけてという説明があります。これの10ページでは850万円となっているんですけども、これは今までの事業に加えてこのジオサイト整備ということで予算を上積みする分が850万円と、こんな考え方でよろしいのでしょうか。その辺わからないので、説明していただきたい。

烏山城の確認調査につきましては、平成28年度三の丸の調査をされたと聞いておりますが、

先ほどの説明では平成30年、31年度とあと2年残っておりまして、平成29、30、31年度です。それで、29年度はどんな確認調査を予定しているのか、もう一度説明をお願いしたいと思います。

あわせて、佐野市の唐沢山城が平成26年2月何日かでしたね、国の史跡に指定になったのが。本年度佐野市の唐沢山城で全国山城サミットが開催されると思うんです。それに本市も、国の史跡の指定を目指すということでありますので、ぜひ参加していただきたいと思うのですが、その考え方についてお示しをいただきたいと思います。

2つ目は、武道館が大分整備されてまいりましたが、さらに6,000万円かけて附帯駐車場等、公園というのを整備するという説明でございましたが、武道館についての今後の使用の仕方というのですか、いわゆる武道を中心にやられるのは結構なんですけども、文化活動やコミュニティ活動なんかにも活用できるのではないかなと思うんですけども、いつごろいわゆるお披露目をして、使用はどのような形で使用されるのか、説明をいただければと思います。

3つ目につきましては、概要書10ページでございますが、一番下に電子入札システム経費リース及びレンタルと、311万円とありますが、その上の表では管財管理費ということで、電子入札システムリース経費等ということで3,538万8,000円とあって大分金額が違うんですけども、この電子入札制度をどのように導入して運用を図るのか、このシステムの仕組みを、あと運用の方法を説明いただければと思います。

次に、この概要書の16ページでございますが、下に地域の学校を核とした地方創生事業費55万円というのが載っているんですけども、これは同僚議員どなたか聞いたでしょうか、私記憶していないのですが、もしまだ説明がないとすれば、これはどのような事業をどこで展開する考えなのか、お示しをいただきたいと思います。

次に、18ページの一番下でございますが、この字が小さくて、私も老眼が進んでおりましてなかなか見えないのですが、新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業費というのが去年は380万6,000円ついていたのですが、これが皆無になっているんです。新たなステージに入ったのに平成29年度は全くやめたということでは困ってしまいますので、恐らくは何か別な事業に振りかえられているのかなとお見受けするのですが、この中身についてお示しをいただきたいと思います。

次に、6番目は、21ページでございますが、青少年社会活動指導者育成事業費、これが去年は3万円ついておりますが、ことしはゼロとなっているんですが、青少年の社会活動は非常に大事だと思うんですけども、これについてもどんなふう考えているのか、お示しをいただきたいと思います。

7つ目の質問は、22ページの烏山公民館費でございます。これも一般質問等で、今まで公

民館にいわゆる管理人というか、職員が常駐しておりましたけども、今度は通いになってしまったということを問題視したのですが、これは29年度どのように改善を図る考えなのか、お示しをいただきたいと思います。

8つ目の質問は、この予算書の89ページ、国民健康保険特別会計なんですが、簡単に言うと、来年、平成30年度にこの国保が1本、県に移管されるということになると思います。そういう意味での、いわゆる29年度は準備段階ではないかなと思われるんですけども、この29年度は30年度の国保会計県移管に向けてどんな準備と段取りを進めていくのか、そして、県に移管されても、その運営主体は市としてやるのか、その辺もう一度確認しておきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

9つ目の質問なのですが、これは去年も同じような質問をしたんですけども、那須烏山市外に住んでいて、もう那須烏山市には帰ってこない、と、ただ、不動産を初めそういう物件が市にあって、そして、納税もこれから大変だから、物納で、資産を市に移管したいということについて税務課ではどこかしかるべきところとそういう案件についての対処を、国税においては物納は可能なのです。その辺どんなふうに見られているのか、もう一度確認したいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） それでは、まず、第1点目の文化振興課関係の御質問にお答えしたいと思います。

概要書の3ページ、芸術文化の環境整備の中のジオパーク構想推進事業費1,834万6,000円と、10ページのジオサイト烏山城跡整備費の850万円の関係でございますが、こちらは3ページのジオパーク構想推進事業費1,834万円の内数として、そのうちの850万円を使いまして遊歩道の整備、こちらは平成30年度に予定しております築城600年祭を見据えまして29年度遊歩道を整備したいということでございます。残りの1,000万円弱につきましては、ジオパークの認定を目指して、そちらの事業費ということでございます。

文化振興課の関係で2点目の烏山城跡の確認調査、29年度の部分、調査場所につきましては、今年度は、議員御指摘のとおり、三の丸の調査をやっております。あと、途中、国の変更をいたしまして、一部釜ヶ入口の測量を今年度実施してございます。釜ヶ入口は烏山城がまだ三の丸ができる前の当初の入り口、登り口と呼ばれているところでございますので、そちらの調査を29年度は行いたい。あわせて、これから指導委員会がございまして、今そういった指導委員会の助言等をいただきながら進めるわけですが、あとは上の部分、今後本丸の西側の

西城とか、そういうところも予定をしているということでございます。

3点目の唐沢山城跡の山城サミットにつきましては、現在のところまだ参加の予定はございませんが、非常に近い、同じ県内でありまして、既に国指定になっているところでございますので、できるだけ情報を交換できればということで参加の検討はしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは3点ほどあったかと思えます。

まず、初めに、同じく概要書3ページ、今の下段になります。スポーツの振興、武道館について。武道館の仕様等につきましては、先ほど佐藤議員にお答えしたとおりでございまして、主に使用するのには武道になるかと思えますが、そのほか文化団体ですとか、そういったほうにも働きかけて、あいているときには使っていただきたい。そのほかにもいろいろな団体等で使えるように調整をしたり、検討をしてみたいと考えてございます。

それから、お披露目をいつごろにして、いつから使い始めるかということなのですが、ただいまの予定では5月連休明けぐらいにできればこけら落とし、お披露目をしまして、6月からは供用開始をしたいと考えてございます。

2つ目なのですが、同じく概要書21ページ、社会教育事業費、青少年社会活動指導者育成事業費3万円が皆減になっている、どういうことだということでございますが、これにつきましては、いわゆるジュニアリーダーズクラブという、高校生を対象にした団体への活動費補助金でございます。実際現在のところ2名しかおりませんで、活動実態がございませんので、とりあえず平成29年度については当初予算では落とさせていただきます。もし今後人数がふえて活動するということであれば、補正等で対応したいと考えてはございます。

あと1点、次のページ、22ページ、烏山公民館の体制についてということでございます。本年度御指摘のように当番で行っておりましたが、来年度に向けましては人数をある程度あちらに配置いたしまして、月曜日を職員の休みといたしまして、土日も職員を置いて、管理と公民館活動の普及、啓発に当たりたいということで予定をしております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 概要書10ページ、電子入札システム等について説明をさせていただきます。まず、上の段の電子入札システム技術経費等3,538万8,000円でございますが、財産管理費ということで、市の集中管理の公用車に係る経費、また、市の土地の貸し付け、逆に借り上げ、それと防犯カメラ、AEDのレンタル利用等それらの財産管理が含まれておりますので、それらの金額で3,538万8,000円ということで御理解をいただきたいと

思います。

その一番下の電子入札システムリース及びレンタルということで、これにつきましては平成29年度できるだけ早いうちから電子入札に移行していきたいということで、平成28年度の補正予算でこれらの設置のための補正がにつきまして、現在導入に向けて進めて、また、これらについてはやはり内容が入札業務をネットワーク経由で行う方法であります、端的に言えば。手続の透明性の確保とか、競争性の向上、事務の迅速化などの効果が期待されるものでございます。しかしながら、小さい業者等ではまだまだこの電子入札、県の工事とか行っているところについてはもう、当然ほかの県もそうですし、ほかの市町なんかでもほとんど導入されている制度ですので、使いなれているかと思いますが、なかなか零細な業者等にはそれなりの指導が必要になってくるのではないかと、そのように感じております。この電子入札システムのリース料として約260万円、それと電子入札のコアシステムのレンタル料ということで42万7,000円を計上させていただきました。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 1点、概要書16ページ、地域の学校を核とした地方創生事業費についてお答えいたします。これにつきましては、地方創生推進交付金事業、JR烏山線沿線まちづくり推進事業、七福神プロジェクトのうち烏山高等学校との連携事業に係る経費でございます。経費の内容につきましては、来年から烏山学という新たな取り組みが行われます。それに係る講師謝金、また、学生が市内に繰り出したときにかかる送迎費等の業務委託経費を予定しております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 私からは新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業につきましてお答えしたいと思います。これにつきましては、数年前から国の新たな補助制度ということで、がん検診の中で子宮頸がん、あとは乳がん等5歳刻みで無料でできるというクーポン券を発行して受診勧奨したものでございますが、費用をかける割には国の補助も1割もつかないような補助ということで、あとは受診効果等いろいろ今までの結果を見たところ、受診比率が低くて効果も余り見当たらないということで、こちらをなくしまして、今までの総合検診に一括したいということで考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 私から国民健康保険についてお答えいたします。平成30年度

の新保険制度の導入に向けて平成29年度はどのような準備を進めるのかという御質問だったかと思いますが、こちらにつきましては、平成30年度から新しい制度というものを簡単に説明させていただきますと、全てが県に移行するわけではなくて、保険給付の部分、その部分財政主体が県に移りますということで、今まで各市町の保険者が行っていた保険給付を一括して県で行いますということになるのです。県として県全体の額が必要になるわけですが、その額を今度は各市町村の保険者が納付金という形で県に納めなさいという制度になるのです。なので、これから市としましては、その納付金を納めるために保険税とかの納入がどのぐらい必要かということ等を算定していかなければならないということになるわけですが、それに向けて今4つの分科会で県内全市町の保険者が集まって検討委員会を開いています。その中には財政運営分科会ということで、今後財政どのぐらいの給付費が必要で、どのぐらいの納付金が必要になるのかという試算をしているところや、税の標準税率を示すための税分科会、それから、国民健康保険の被保険者の資格を管理する資格管理のための分科会、それから、個別に今各市町村で行っている保険事業を、そちらも行く行くは県内で統一したもので受けられるようにしたいという県の目標もありますので、それらに向けて検討している保険事業分科会という4つの分科会で細かな調整を行っているところです。平成29年度は30年度に移行するに当たり、具体的な納付金の算定方式が示される予定です。それから、標準税率も示される予定になっていますので、市としましてはそれらに向けて本来今行っている市の税率が適正なものかどうかというものをまず検討していくことが必要になるかと思います。それから、物理的にはシステムの改修とかも必要になりますが、ほぼ今年度でシステムの改修等については済んでいるところです。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小口税務課長。

○税務課長（小口久男） 平塚議員の、市外に住んでいまして、市内に土地家屋等を有する納税義務者の方がこちらに永久的に戻れない、利用しないという案件について、納税についてどうなのかという御質問だと思いますが、平塚議員が先ほど言われたとおり、国税については物納という制度がありますが、地方税については物納という制度がありませんので、基本的には物納で納税するということはできません。しかし、相続関係で、なかなか相続をしないということで、地方税法上こちらで代表者を決定しまして納税代表人に通知を送りまして納税していただくということで現在やっているところなんですけど、ただ、こちらで一方向的に指定していますので、納税しない方が多くいらっしゃいます。ということは、当然滞納になりますので、滞納処分の手続としまして差し押さえ等を行いまして、最終的に競売等を市でできるのですが、ただ、費用対効果ということで、資産の不動産鑑定とか手続上、例えば、30万かかります。

ただ、競売で売った場合、20万でしか売れませんということになりますと、当然そういう手続をすることによって市が損するということになりますので、なかなかそういう強制的な執行もできませんので、この件については大変処理等について苦慮しているところで、滞納が継続している状況でございます。

○議長（渡辺健寿） 18番平塚英教議員。

○18番（平塚英教） 説明は大体理解できました。

新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業費の減額でございますが、いわゆる市が行っている総合検診にシフトして、そこできちっと必要な対処をするということで結構だと思うのですが、今まではこの総合検診とか、人間ドック関係は家族の方が申し込んでも受けてくれたのですが、今は本人が申し込まないとなかなか受付にならないと聞いているんですが、本人がこれは受けるものでございますから、当然であろうと思いますが、なかなか本人が受けなくて、苦しくなってから医者に行くということが多いと思うので、その辺もう少しこの検診とか、人間ドックとか、そういうものを本人を含めて、もちろん本人の印鑑があれば家族の方が申し込んでも受けられるようにうまく運用できないかなと思うのですが、その辺もう一度ご回答いただければと思います。

国保の平成30年度移管については今の説明で大体わかったのですが、納付金の算定を今進めているということでございますが、それぞれの市町村によって国保の財政調整基金の持ち高が違うんです。我が那須烏山市は6,165万円が調整基金です。あとは診療所の運営基金とか、いろいろありますが、これをほかの市町村と同じように膨らまさないためなのかどうなのか。膨らますためには当然保険税を上げないとその額になりません。そういうことで、またこの国保税の平準化というか、値上げになって、高いところに合わせられるようなことになってしまうのかなと思うのですが、その辺の懸念はないのでしょうか。その辺もう一度確認しておきたいと思います。

それと、先ほどの質問で漏れたのが1件ありまして、9ページの概要書の一番上の教育委員会事務局費ということで、小中一貫教育推進事業等ということで482万7,000円ですか、あるんですが、これはどのような小中一貫教育を進めるのか。10ページにも小中一貫推進事業は33万円ということで載っておりますが、ここもやはり33万円で、9ページは482万7,000円とこうなっておりますが、合わないのですが、これについても一度御説明をいただければと思います。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 健康診査につきましては、今まで各自治会通して診査票を送って、申し込みを受けてという形でやっていたと思うんですが、どうしても若年層というか、

若い世代の方の申し込みが少ないということもございまして、今回内容を再度内部で検討しまして、インターネットの予約という制度で受付を開始したいと考えております。この平成29年度については今までどおりということでございますが、次年度からは考えております。詳細については後でまた説明したいと思います。

○議長（渡辺健寿） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 先ほど国保の財政調整基金が納付金に影響するのかというお話だったかと思うんですが、基金につきましては各保険者で持っているところ、持っていないところ、まちまちでございますし、繰り入れの額もそれぞれ違いますので、納付金に影響があるということはありません。ただ、例えば、納付金を納めるに当たって、保険税を低く抑えたいから、保険税を低く抑えて、その分基金を使って納付金をいっぱいにしますという使い方はそれぞれの保険者でできるということなので、基金をたくさん持っているところは税率を抑えても納付金が納められる、基金がないところはそれなりの保険料を集めないと納付金の額にならないということになるかと思えます。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、9ページの教育委員会事務局費ということで482万7,000円計上されていて、その後10ページに書いてある中では33万円ということで、どういうことなのかということでございますが、教育委員会事務局費については、そのほかにも事務局での消耗品いろいろなものが含まれているということで、小中一貫教育推進事業費についてはそのうち33万円ということでございます。（「何をやるのか」の声あり）

はい。それでは、小中一貫教育につきましては、平成28年度の補正予算からついている事業でございまして、平成28、29、30年度ということで、3年間の事業になっております。それについては、県内の4市、小山、大田原、那須塩原市、それとうちの那須烏山市ということで実施をするものでございまして、小中学校の連携を深めるというところで研究をするということでございます。ということで、協議会等で講演会とか、視察・研修をするということでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 30分となりました。次の方をお願いします。

16番高田悦男議員。

○16番（高田悦男） 16番高田でございます。それでは、那須烏山市予算概要から3点についてお聞きしたいと思います。

まず、9ページの人と文化を育むふれあいのまちづくり、イングリッシュセミナー事業費33万5,000円が予算化されております。この内容をお示しいただきたいと思えます。

続いて10ページ、ふるさと応援寄附金事業費369万7,000円。実はこのふるさと納税につきましては、昨年11月30日の下野新聞に言論として出ています。元総務大臣の片山さんのお話なのですが、導入した国は無責任であると一方的に切り捨てています。なぜかといいますと、年収700万円の給与所得者が自分以外の自治体にふるさと納税を3万円寄附すると本来納めるべき住民税が2万8,000円控除されます。つまり、2,000円で3万円を納税したということになるわけです。より所得の高い人が、例えば、10万円寄附すると、9万8,000円の控除になります。これは20万円でも同じです。19万8,000円の控除になります。これが当初はふるさと納税、つまり自分のふるさとを応援する寄附金としてスタートしたわけです。ところが、今どうですか。その本来の趣旨から全く逸脱をしている。私はそのように感じるわけです。逸脱した仕組みの中で全国の自治体が競争に明け暮れているのです、コスト無視で。もらったほうは大得です。例えば、10万円もらって5万円分の返礼品を使っても5万円ただで入ってくるわけですから。しかし、それが出ていった自治体はどうですか。行政サービスのコストをまるっきり考えていないという仕組みなのです。したがって、この369万7,000円の事業費ですが、どんなものに使うのか、それで、返礼品の上限が決まっているのかどうか、あるいは考えているのかどうかもまず初めに示していただければと思います。

3番目が、同じく10ページの健康診査インターネット受付経費538万円、この内容について示していただければと思います。

以上3点です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） まず、初めに私から概要書9ページ、イングリッシュセミナー事業費、イングリッシュキャンプ業務委託費33万5,000円の内容についてということですので、御説明をいたします。この事業につきましては、一応小学校高学年を対象といたしまして、英語体験活動を夏休み期間中の土日の2日間日帰りで行うための業務委託の費用になります。一応講師につきましては、市内各学校にALTを想定してございます。今のところ予定では7月29、30の土曜・日曜を予定してございます。これより過ぎてしまいますと、ALTもちょうど長期休暇で、夏休みということでみんな帰国をしてしまうということで、いないものですから、この日を一応予定はしてございます。中身の詳細につきましては、これから打ち合わせ等経て検討してまいりますので、中身についてはそこまで決まっておきませんので、御了解願いたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ふるさと応援寄附金の関係でございますが、まず、返礼品の内容でございますけれども、地元の特産品を活用した返礼品ということでございまして、現在市内の15の事業者から御協力いただきまして、54種類ほど返礼品を用意させていただいております。なお、内容と申しますか、上限でございますが、1万円御寄附いただいた方については5,000円ということでございますが、10万円以上の御寄附については3万円までの返礼品ということで、30%から50%までの返礼率ということでございます。ちなみに平成28年度については約2,000万円に対して400万円の返礼をしておりますので、返礼率は21%程度でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 私から健康診査のインターネットの受付関係をお話ししたいと思います。今まで健康診査をずっとやってきたところなのですが、どうしても受診率の問題が出ていまして、高齢者については結構伸びがあるのですが、若年層の方、こちらが伸びがないということがございまして、これをいかに上げていくかという方策の中で、気軽に申し込みができるような環境を整備していきましようということで、平成30年度から本格導入ということで考えています。どうしても30年度の健診については、30年2月ごろには健診の受付申し込みがございまして、平成29年度の予算でこのシステムを考えていくということになります。

費用につきましては、今まで各自治会等通しまして大きい紙で送っていたと思うのですが、それを個人IDを付した個別通知、A4版の圧着用紙になるのですが、これを個別で通知をしまして、それによって各自申し込みをしていただくということになります。インターネット環境がない方については、今まで返信用封筒だったのですが、電話で受付をすることで新たに電話も一本この対応に考えているところでございます。

それと、あと、インターネットの受付でやりますと、今までも早目に申し込みをして、5月ごろに一斉に多分あなたはいつ受診ですということで結果を送っていたと思うのですが、今回はネットによりまして健診の3日ぐらい前にもう一度健診の日のお知らせをできるという環境にもなります。あとは予約のキャンセル等についてもネットと電話等でスムーズにできるというシステムになっております。どうしても大きな紙、A4版の圧着の郵送もかかってしまいますので、今回は印刷と郵送、こちらで450万円ぐらいどうしても上がってしまうという状況でございます。ただ、ことしについては、あと平成29年度の未受診者に対して、また、受診催告というか、勧奨分3,000通ほど今年度予定していますので、それも含めた数字で今回計上しております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 16番高田悦男議員。

○16番（高田悦男） 再度確かめていきたいと思います。

イングリッシュキャンプという用語になっているものですから、泊まりでやるのかなと私は当初考えていたのですが、泊まりにできないという理由は何かあるのでしょうか。例えば、泊まりでやりますと、安全確認とか、いろいろな事故も想定しなくてはならないと、このように考えていますので、その辺の考え方をお示しいただければと思います。

続けていいですか。ふるさと応援寄附金、いわゆるふるさと納税なのですが、具体的な政策についてでありますから、これは一課長がどうのこの判断できるものではないと、そのように思っています。国が廃止をするまでは自治体も取り組まなくてはならないのかと、このように同情的に思うわけです。それで、たしか千葉県ですね、ある自治体が1万円で7,000円分の商品券をお礼に出しているという報道がありました。つまり、これはもう過激な競争のきわみですよ。それならばいっそ我が市でもプレミアム商品券5枚ぐらい配るといいのではないかと考えています。5枚というと、金額は5,000円ですけど、7,500円分のことに限っては買えるわけですよ。商品券を使うためには本市に来なければならない。車であれ、烏山線であれ、那須烏山市を訪問しなければその商品券は使えない。こんなことも一考されてはどうかと思っていますので、その考え方を示していただければと思います。課長で判断つかなければ、市長もいかがですか。

では、3番目。健康診査のインターネット受付、これは若い人には当然受けることだと思います。これは受け付けたということと本人がどのような形でチェックできるのでしょうか。あと、また、そのときに当たってはパスワードとか、ID、これも必要なかどうか、あるいはセキュリティなんかは個人情報ですから、どのように考えているのか、簡単でいいですから、お示しいただければと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私から最初の追加質問を、なぜ泊まりでやらないのかということとございます。それにつきましては、今小中学生の間でもアレルギー関係もございますので、泊まりということになりますと、こちらで食事を提供するということにそういった健康管理関係も難しい面がある、それから、使用する施設、一応参加者からは負担金を取る考えはないものですから、そうしますと、この近辺で宿泊ができる施設というものがほとんどないということとございまして、以前でしたら南那須少年自然の家のような、そういった交流施設があれば利用可能ではありましたが、現在のところそういった施設もない。あとは保護者の送

迎等の関係がございますので。あとは、これは考え方なんです、一日一日別な児童を募集するか、2日間通して児童を募集するかというのも、日帰りであれば、別々にも募集できまして、要望が多ければより多くの児童が体験できるというメリットもあるので、今のところ日帰りで考えてございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ふるさと応援寄附金の関連でございますが、議員おっしゃるように、確かに金券であるとか、高額な電化製品というのは換金性が非常に高いということで総務省からも自粛するようという、通達と申しますか、指導が来ております。本市におきましては、そういった金券とか、高額な電化製品というのは返礼品に用いておりませんが、先ほど議員からお話がありましたように、本市に来ていただいて体験していただくような、例えば、那珂川のカヌーツーリングであるとか、パラグライダーのフライトができる券であるとか、また、市内のゴルフ場のプレー券であるとか、そういったものを返礼品の中に利用させていただいて、できるだけ本市に来ていただいていろいろな体験をしていただくような考え方を現在としております。結構人気も出ております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 予約システムでございますが、予約専門の個人IDを付してあります。住基のマイナンバーとは別なものということで付して個人宛てに通知ということで、そのIDを使って申し込みしていることになるのですが、申込者については受診票は郵送でまず送ります。そのほか画面でも検索できるという形になると思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） どうですか。16番高田悦男議員。

○16番（高田悦男） そうしますと、イングリッシュキャンプ、これは当然昼食はどうするのかという心配をしていたんですが、午後から、午前中というわけにもいかないでしょうか。アレルギー等に注意しての泊まりのキャンプは考えていない、これは正解だと思います。ちょうど7月29、30というと土曜・日曜なんです。ですから、一番心配しているのは、小学生の場合の大会なんかはどうなんです。野球大会、結構ありますよね、部活の。その辺と合致しないような計画を立てていただければと思います。

続きまして、ふるさと納税ですが、プレミアム商品券はどうですか。今のところは考えていないということですか。千葉県のある自治体の話をしましたが、7割も返礼品で返して

いるんです。ですから、これはもう異常な競争を招いているとしか言いようがないと思うんです。つまり制度が悪いんです。本来のふるさと納税、自分の出身地、あるいは奥さんの出身地とか、そういう条件に戻すべきだと思うんです。これはあえて別の場でも私は発言していますので、できれば早いうちに反映したいと思っています。

最後の健康診査のインターネット受付につきましては了解いたします。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 昼食の問題につきましては、一応お弁当を持ってきていただく考えでございます。

それから、小学生の大会等という御質問だったかと思うのですが、現在小学校で部活はやってございませんで、小学生が活動しているのはスポーツ少年団関係の大会かと思うのですが、夏休み入ってすぐはなかったかと思うんです。なぜ7月の下旬かというのと、それ過ぎになりますと、各子ども会育成会の事業等が入ってきたり、いろいろあるものですから、その日を一応考えております。イングリッシュキャンプの参加は自由でございます。ただ、高学年というくくりでやっておりますので、それが4年生以上になるか、5年生、6年生になるかは、A L T のお願いする業者とも、あと、学校とも協議をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） プレミアム商品券でございますが、現在のところ金券等は考慮しておりません。

○議長（渡辺健寿） よろしいですか。16番高田悦男議員。

○16番（高田悦男） 了解。

○議長（渡辺健寿） 次ありましたらお願いします。

15番中山五男議員。

○15番（中山五男） 最後で少し長い質問で申しわけありません。質問項目は既に課長にお届けしてありますので、早く申し上げますので、よろしくお願いをしたいと思います。

まず、歳入、一般会計の20ページ、県の委託金。これは先ほど同僚議員からも質問があったんですが、小中一貫教育の推進事業費、県から33万円いただいております。これは28年から始まっているんですが、教育長、これは義務教育校に那須烏山市は移行する考えがあるのでしょうか。ただ検討してみると、その程度で終わるのかどうか、これについてお伺いしたいと思います。

次に、21ページの財産収入なのですが、奨学金の利子が370万円、それに対して支出が570万円で、これでは元本割れしてしまうのかなと思うのですが、この辺のところについて

お伺いします。

次に、23ページの諸収入の中に不登校児生徒受託事業収入が240万円ほどあります。これは現在那須烏山市で不登校の対象児童は何人いるのか、それと、本当にこういう事業をやって不登校の生徒の数が減っているかどうか、この辺についてもお伺いをしたいと思います。

次に、歳出です。これは私、市長に提案なのですが、障害福祉関係なのですが、まず、1件目は、大田原ではもう既に実施しているのですが、障害者手帳申請の際に必要な診断書の費用を市で助成できないかということです。それともう1つ、温泉入浴券なのですが、私ら70歳以上になりますと、200円の割引券がいただけます。これを当面重度心身障害者に対してこの割引制度ができないかどうかお伺いをします。

次に、30ページ、生活保護費です。この扶助費が2億4,800万円です。これは前年度より減額をしています。私は生活困窮者はどんどんふえているのではないかと思います、逆に減っているんですが、那須烏山市の場合はこの申請をしても不許可になったケースが何件もあるのではないかと思います。それで、そこでトラブルや何かがなかったかどうかあわせてお伺いをします。

次に、41ページ、母子保健費です。新たな事業なのですが、子育て世代包括支援センター事業535万3,000円です。これはどのような効果があるのか、具体的に何人ぐらいこの事業でもってこの参加ができるのか。

次に、42ページ、清掃費があります。廃棄物の監視員537万3,000円、毎年この程度の支出をしていますが、私はもうこれほどの監視員が必要ないのではないかと。1名ぐらいは必要かもしれませんが、これは減額するべきと思って質問しているわけであります。

次に、45ページの農地費の中、烏山土地改良区の補助金が162万円、南那須土地改良区は72万円、これは毎年烏山より南那須のほうが少ないのですが、なぜこのような差があるのか、お伺いをします。

次に、54ページ、教育総務費の中にスーパーティーチャー育成事業で95万1,000円です。これは交付金というのですから、何らかのこういった団体があって、そこに交付するのだと思いますが、これはどのぐらいの事業費があって、そのうちこの市から95万1,000円を交付するのか、その辺のところをお伺いします。

次、56ページ、中学校費の中に南那須中のエレベーター改修1,280万円ほどあります。これは多分給食を2階、3階と押し上げているのかと思いますが、これはなぜ今回改修する必要があるのか、お願いいたします。

次に、58ページに社会教育費。これも同僚議員が質問しました。ユネスコ登録の記念の俳句大会、100万円に私もびっくりしたのです。交付金を1つの団体に100万円を出すとい

うことは、これに対して事業費というのはどのぐらいかかっていて、そのうち100万円を交付するのか、この辺のところ明らかにしていただきたいと思います。

それにジオパーク構想、この財政難の中で1,800万円も今回予算編成してよろしいのか。これも私は非常に疑問を持っています。

次に、60ページの保健体育費です。これはことしがなくなってしまったものですから、お伺いするのですが、アーチェリー部の補助金です。去年は130万円、ことしはありません。私の先日の一般質問の御答弁でも、市長は本市のスポーツ競技の中で唯一アーチェリー競技が国体、またはオリンピック出場を見込めると、このように答弁されていますが、なぜこれを育成しようとししないのか、これで十分と思われるのか、お伺いをいたします。

次に、国保会計の100ページ、国庫負担金があります。課長、3月に7,000万円ほどマイナスして補正後は6億6,800万円になっています。ところが、平成29年度の予算はそれを超える7億983万3,000円ついている。これは真に見込めるのですか。またマイナスにならないのか心配して私は質問したわけです。

もう1つ、後期高齢者の関係なのですが、この予算書の147ページの医療保険料です。これも3月に570万円ほど減額しています。それで、補正後1億9,000万円にしました。しかし、それを超えることしの予算は1億9,175万5,000円です。これも見込めるのかなと思ひまして質問をいたします。

次に、下水道関係なんですけど、189ページに、平成29年度烏山地区はまだ受益者を広めると思いますが、この広めた部分の受益戸数、何戸ぐらいふえるのか。そして、平成29年度末は烏山地区の加入率が何%ぐらい見込めるのか、お伺いをいたします。

次に、簡易水道です。211ページ。これは一般管理費の中で委託費が平成28年度は703万円、29年度は1,938万1,000円と約3倍にもなってしまったんですが、なぜこのように増額になったのか。この委託費です。

それに水道事業の中からお伺いしたいと思いますが、211ページです。有収率、これは先ほど佐藤議員も質問があったんですが、平成27年度決算の際は69.2%と言いました。そうしますと、28年度改修し、また、29年度もこの漏水対策をやるんですが、29年度やるというと、この有収水率何%ぐらい上がる予定ですか。

次に、今度は予算の概要から二、三お伺いしたいと思います。

まず、1点目に、新しい事業なんですけど、企業誘致促進事業として500万円ほど載せていますが、これは真に那須烏山市にこの企業誘致が可能なのかどうか、見込めるのかどうかについてお伺いしたいと思います。

2ページです。観光費のうちデスティネーションキャンペーン492万1,000円です。

これはこの事業によってどのぐらいの来客が見込めるのか、ふえるのか、この事業内容についてお伺いします。

次に、農業費です。中山かぼちゃ支援として100万円ことしも計上しました。去年も計上しているわけなのですが、去年は本当に効果があったのでしょうか。それと、この中山かぼちゃは中山地区でとれた、採集した種子、この原種でないと通用しないんだそうなんです、この原種の種子については確保できるのかどうかです。

次に、新しい事業費で、農業費のうち農業振興として97万2,000円見込みました。これは那須烏山市としてどのような新しい作物を見込もうとしているのか、お伺いします。

3ページに、これも新しい事業です。健康支援43万円、わずかなのですが、これは地域資源を有効活用するというのですが、この地域資源というのは具体的に何を活用する考えなのか、お伺いします。

次に、これも新しい事業です。これも同僚議員から既にあったんですが、子供インフルエンザの予防接種306万円です。これは実際積算するには何歳以上の子供何人分を計上したのか、お伺いをしたいと思います。

それに、子宮頸がんワクチン、本市の考え、これはぜひ、ありますよね。裁判にもなっているのですが、那須烏山市はどう考えているのか。

それと、保育士就労資金180万円、平成28年度の実績、これは同僚議員誰か質問しましたか。はい。

新しい事業で、病児保育事業916万4,000円あります。これは多額の費用で驚いているのですが、これはどんな内容なのか。具体的に何人ぐらい対象になりそうなのか、これについて。

次に、新しい事業です。観光ガイド養成で1,238万2,000円あります。これは英会話のできるような教育をするというのですが、私、那須烏山市の職員にも相当英会話のできる職員がいると思うのです。ならば、この市職員で賄えるのではないかと、少し足りないなら、職員を養成したほうがいいのではないかと私は思っているんですが、実際今市職員の中で英会話のできる職員というのは、片言でも通用できるようなのは何人ぐらいいるのか、お伺いをしたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） 教育委員会関係で特に私のほうということで、中高一貫教育推進事業委託金ということで33万円、これは昨年度から本市で手を挙げて実施したいということで国から予算をもらっている事業でございます。これの小中一貫校というのは義務教育学校のこ

とではございませんで、小学校と中学校が連携して同一の教育課程をつくって教育効果を上げていくということでございますし、もちろんその延長上に義務教育学校ということが、否定するものではありませんけれども、小中一貫教育というのは義務教育学校とは一線を画しているものだということでございますので、本市では現在のところ義務教育小学校を導入する予定はございません。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、私から奨学金について申し上げます。予算概要の15ページのところを見ていただきたいと思いますが、奨学基金ということで4億1,781万8,000円が平成28年度末の現在高ということで、これにつきましては、そのうち3億8,300万円で国債を買っております。残りの金額がそれに伴う利子が出てきたということで、毎年七百何万円かのもが入ってきまして、実際に570万円ということで毎年積み立てがありましたけれども、今年度、平成29年度6月で満期ということでございますので、そこら辺が利子等の金額等については今後見込めないという状況になります。今後6年間でその利子分はなくなります。それ以降は元金の取り崩しということになってきまして、単純に残りの金額を570万円程度、今年度並みで計算しますと、73年後にはゼロになるということでございます。

続きまして、不登校児童生徒受託収入ということでございますが、これについては適応指導教室ということで那珂川町と共同事業をやっております、この収入については那珂川町からの委託金額になります。人数等につきましては、今現在の不登校児童、これは年間に30日以上という定義がございまして、現在のところ20人ということでございます。那須烏山だけです。今後若干はふえる可能性はあるということです。レインボーハウスで今来ている生徒については、平成28年度那珂川町で7名、那須烏山市で7名という状況でございます。

次に、スーパーティーチャー育成事業の交付金95万1,000円でございますが、この金額につきましては視察・研修に行っていた先生方に対する旅費等になります。支払い先は先生方ということになります。

続きまして、南那須中学校のエレベーターの改修工事でございますが、エレベーター設置につきましては、1992年8月に設置されたということで既に25年経過しております。法定の耐用年数17年ということでメーカーに問い合わせしたところ、一部部品の生産が中止されていると、今現在はその在庫部品でやっているという状況でございます。今回エレベーターの箱以外、ケーブルからモーターからそういったものの改修工事ということで1,285万2,000円を計上させていただいたものです。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 障害者福祉につきまして御提案がございました。障害者手帳申請等に必要な診断書の費用及び重度心身障害者に温泉入浴料の一部負担という御提案でございます。このことについては実態をよく調査させていただきたい。そして、また、県内市町の状況等も調査をさせていただいて検討させていただきたいと思いますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 福田健康福祉課長。

○健康福祉課長（福田 守） 健康福祉課関連2点ございますので、そちらをあわせて答えたいと思います。

まず、生活保護費の関係でございます。生活保護費の扶助費につきましては、概要の18ページに細事業を2つに分けて書いたと思いますが、現在個人に対する扶助については増額となっております。那須烏山市内にあります母子保護施設の入所者の減少に伴いまして、授産施設に対する事務補助費のほうがかなり減額ということで、総体的には減額ということになっております。

御質問でありました不許可の関係でございますが、今年度は申請が15件ありまして、そのうち14件が保護となりました。1件でございますが、この方については、母子保護施設にDV関係で来た方なんです。保護申請をしてすぐにした後どこかに行ってしまったということがありましたので、一応内容としては却下という処分となっております。1件の却下という事例となっております。全体的には、昨年2月1日現在の保護世帯が126世帯、ことしの2月1日現在123世帯ということで、3世帯ほど減っております。市で厳しくやっているわけではございません。就職とかになった方もいらっしゃる。今回は実質14件が開始になりましたが、17件の廃止、大きくは市外転出と就職等ということで廃止となっております。

次に、健康支援の地域資源有効活用ということで質問がありましたが、これにつきましてはヘルスツーリズムという事業のことを指しております。ヘルスツーリズムというのは、旅行という非日常的な楽しみの中で健康回復とか、健康増進を図って、旅行後も健康的な行動を持続することによりまして豊かな日常生活を過ごせるようにすることを言うわけでございますが、この那須烏山市、豊かな自然、文化、歴史、こういうところに触れながら、自然治癒力を高めるウォーキングとか、清流那珂川でのリラクゼーションとか、おいしい地元食材を使った料理体験とか、農家民泊による農業体験、こういうものを旅行と組み合わせてやるようなものがヘルスツーリズムということで、これは今回平成29年度につきましては、この那須烏山市がこういった事業を受け入れるには健康なまちでなければ事業が入りませんので、まず、受け手となる市民に対して、そういった成功事例をやったところの方を呼んで、健康なまち、受け手

となるような意識改革をしていくということで予算を組んだところでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 廃棄物監視員の御質問ですが、質問では清掃費となっておりますが、予算書の41ページの環境衛生費の中の環境対策費1,130万4,000円の内数として廃棄物監視員設置事業537万3,000円を計上しています。これは監視員の2人分の人件費ということになっております。その実績ということで御質問ですが、不法投棄の監視活動、それから、一般廃棄物の回収、さらに処理困難物の回収の実施、さらに犬・猫・ハクビシンの死体の回収、これにつきましては年間250頭ほど回収しております。9月の決算議会においても経済建設常任委員会の中でもここ一、二年まちなかがきれいになったとお褒めの言葉をいただきました。監視員は環境行政の推進に必要不可欠な存在となっておりますので、御理解いただきたいと思っております。なお、歳入の15款総務費県補助金のうち市町村交付金として2人分の人件費180万円を満額いただいて人件費に充当しているということになっておりますので、申し添えます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 奥澤上下水道課長。項目が多岐にわたっていますので、要点のみの答弁をお願いします。

○上下水道課長（奥澤隆夫） まず、189ページの下水道関係です。平成29年度の受益戸数ですけれども、37戸ふえます。目標としましては、今現在34.94%ですので、35.の上位に行ければなと思っております。ちなみに27年度から未接続者に関しまして戸別訪問を行っております。

続きまして、簡易水道、211ページの維持管理費が増加しているということで、今年度重要な簡易水道の境東簡易水道区域の施設、耐震2次診断を実施するために委託料で1,050万円計上いたしました。また、同じく境東の施設ですけれども、電気計装設備の点検に関しましても増額になっております。

続きまして、最後になりますが、水道事業です。最重要の有収率のことですけれども、今年度烏山地区におきまして老朽給水管の漏水がふえているということで、1戸ずつ、約2,000戸の戸別の漏水調査を行ってまいりたいと考えています。これ以降も順次漏水調査を行って修繕のことも実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井農政課長。

○農政課長（糸井美智子） 私からは農地費の中の土地改良の補助金についてまず1つお答

えします。烏山土地改良区の補助と南那須土地改良の補助ということで、その差異はということでございます。そもそもこの土地改良区の、さかのぼると、合併以前の烏山町、南那須町に行くのかなと思われま。まず、烏山土地改良区につきましては、これは聞き取りなんですけれども、昭和60年の時点では350万円の補助を出していたようでございます。それが合併以降、平成19年のときには200万円、その後少しずつ減らしてきて195万円、185万円、180万円。で、180万円というところで昨年までずっと来ていたわけなんですけれども、昨年財政の厳しい折ですので、10%一律減額という指示がありまして平成28年度の予算として162万円になりました。実績はそういうことです。南那須土地改良区は、土地改良区といってもこちらは、その農業会館に入っております南那須土地改良区と荒川南部土地改良区、田野倉土地改良共同施工、さらに農事組合法人ファームあらなんがあそこに事務局を構えているのですが、そこに入っている皆さんで南那須土地改良事業団体協議会というをつくっております、そちらへの補助になっております。こちらにつきましては、合併以降ずっと100万円ということで来ておりますが、平成28年度の予算でやはり10%減額で90万円になりました。ことしはさらに20%の減額をして72万円の予算計上をしているのですが、これは残金が多く、繰越金が多いということで、そのように踏み切ったところでございます。

次に、農業費の農業振興費で中山かぼちゃの支援についてと園芸振興について、その内容というか、そちらについてお尋ねがありました。

まず、中山かぼちゃの支援100万円でございますが、こちらにつきましては平成27年度から31年度までの5カ年事業として、その生産拡大とブランド化を図ることを目的にJAと連携して取り組んでおります。その内容は、資材等の補助、それから、販路の拡大等のPR、議員心配されていらっしやいました種苗、苗ですね、そのキープというか、それにつきましても補助のうちに見込んでおります。その効果でございますが、平成28年度までに新規栽培者として里山大木須を愛する会で、栽培者5名でそれを1件としております。それに藤田地区でも1名、さらに向田地区でも1名の栽培の研修に取り組んで見込まれる方が2名おります。生産につきましては、平成28年度市の出荷量が27年度を上回る状況だったということでございますので、効果が出ているのかなと考えております。

次に、園芸振興の97万2,000円でございますが、こちらはJAなす南が実施しましたパイプハウス等の補助事業につきまして市からもさらに20%の補助をするものでございます。その作物ですが、重点作物としては、シュンギク、ニラ、キュウリ、イチゴ、ナスなどを挙げております。さらに、その効果としましては、農業者の所得増大、農業生産の拡大につながればと期待をしております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） では、私からは社会教育費のユネスコ登録記念の俳句大会交付金並びにジオパーク構想推進事業費の件についてお答えいたしたいと思います。

最初に、ユネスコ登録記念俳句大会の交付金100万円でございますが、事業費につきましては今現在実行委員会等と詰めているところでございますが、おおむね200万円から250万円ぐらいということで詰めております。内訳といたしましては、選者の先生の謝金とか、あとは賞の商品代、それから……。〔「事業費ということだから、250……」の声あり〕250万円です。

ジオパーク構想事業費1,800万円につきましては、多額の金額ということでございますが、こちらにつきましては総合戦略に位置づけておりますジオパーク推進事業でございますので、まだスタートしたばかりの事業ですので、事業効果を見ながら地方創生の交付金等を充当しながら進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは予算書、議員が60ページとおっしゃいましたが、多分88ページ、アーチェリー部の補助金が平成28年度13万円、それが29年度については皆減である理由をとということだったと思います。こちらにつきましては、当初アーチェリーを誘致するということで、体協にアーチェリー部を新設いたしまして、そこに活動費の補助金として13万円を交付するという予定でやってまいりましたが、いまだ専門部の設置ができていない状態でございまして、今後国体開催に向けまして推進体制の整備検討を進める予定でございます。その進捗状況に応じて必要があれば補正予算等の要求で対応を考えてございます。

もう1点、英語塾関係のほうで、観光ガイド養成、市職員英会話できる職員数ということなんですが、生涯学習課で職員の履歴等を、情報を得ておりませんので、概数で何人だと申されましても根拠となる数字を示せるものがございません。今のところ何人とは言えない状態でございます。大変申しわけございません。

○議長（渡辺健寿） 大変申しわけありませんが、申し合わせによりまして30分を超えましたので、中山議員の質疑に対しましては、答弁未了の質疑項目については後日担当課より中山議員に個別対応くださるようお願いを申し上げます。

ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を

打ち切ることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） 異議なしと認めます。

よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第9号までの平成29年度当初予算案については、所管の常任委員会に付託したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） 異議なしと認めます。

よって、議案第1号から議案第9号までの平成29年度那須烏山市一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、熊田診療所特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、農業集落排水事業特別会計予算、下水道事業特別会計予算、簡易水道事業特別会計予算、水道事業会計予算の9議案については、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

○議長（渡辺健寿） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は3月16日午前10時に開きます。

本日はこれで散会いたします。御苦労さまでした。

〔午後 3時47分散会〕